Vol.9

Passo a Passo

Devoted to the Development of Socio-Intelligence
SENSHU UNIVERSITY

平成18年度 専修大学 資格課程年報『パッソ ア パッソ』

専修大学21世紀ビジョン

社会知性の開発をめざす

専修大学は、1880（明治13）年に設立された私立専門学校（学校名「専修学校」）を基礎とし、時代の進展とともに発展してきました。創立当初の本学は、他校に先駆け経済科と法律科を併設し、経済学と法学の複合教育によって日本社会の近代化を担う人材を育成し、128年にわたり社会・経済の運営を担う実践的な人材を育んできました。

21世紀の今日、グローバル化の拡大と異文化交流の進展、情報化の加速、少子高齢化の進行など、我々が取り組まなければならない課題が山積しています。これらの社会的課題を解決するためには、地球的視野から諸問題を捉える力、創造的発想力、さらには深い人間理解や倫理観が求められます。

こうした新時代の社会で求められる知性こそ、「社会知性」だと専修大学は考えます。それは、学生一人ひとりが自己実現に生かせる知であると同時に、「専修大学が創り育てる知」でもあります。21世紀において本学は、社会知性開発大学としての道を歩むことになります。

社会知性（Socio-Intelligence）とは…

「専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力」である。

表題はイタリア語でパッソ・ア・パッソと読み、「一歩ずつ」という意味です。
地道に努力して難関に挑戦し、突破してほしいという願いが込められています。

注：後半のデータは確定済みの平成18年度のものを掲載しています。

Passo a Passo

目　次

目標と持つことと、目標から自由であること …… 4
——専修大学教職課程協議会委員長
ネットワーク情報学部　教授　砂原　由和
日本近代文学の足跡を海外に訪ねて …… 5
——文学部　教授　髙橋　龍夫

教職課程
卒業生から …… 10
教員採用試験体験記 …… 17
教育実習を終えて …… 22
介護等の体験を終えて …… 28

司書・司書教諭課程
イギリスの図書館と日本の図書館 …… 30
——文学部　兼任講師　須賀　千絵
卒業生から …… 32
図書館実習を終えて …… 33

学芸員課程
専修大学の博物館事情 …… 36
——経営学部　教授　内田　欽三
卒業生から …… 38
博物館実習を終えて …… 39

データ編
平成18年度資格課程履修者数 …… 42
平成18年度教員免許状取得状況一覧 …… 43
平成18年度実習先一覧（教育実習） …… 44
平成18年度実習先一覧（図書館実習） …… 47
平成18年度実習先一覧（博物館館務実習）…… 47
主な就職先一覧（教職）…… 48
主な就職先一覧（司書・司書教諭） …… 50
主な就職先一覧（学芸員）…… 50
平成18年度資格課程年間行事表 …… 51
平成18年度教職公開講座開催結果 …… 52
平成18年度教職特別講座開催結果 …… 53
平成18年度第15回専修大学英語科教育研究会開催結果 …… 53
平成18年度司書課程就職（進路）相談会開催結果 …… 53
平成18年度資格課程教員紹介 …… 54

好きなこと、チャレンジしたいことが、キャンパスで楽しく身につくなんて!!

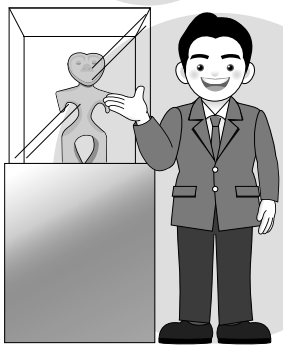
教員を目指すあなたへの

教職課程

本が好き図書館で働きたいなら…

司書課程
司書教諭課程

博物館・美術館で働きたいなら…



学芸員課程

教職・司書・司書教諭・学芸員課程ガイダンス

1～4年次
4月上旬

教職課程履修登録
1～4年次
4月上旬

教職公開講座
（希望者）
1～4年次
10月頃

教職特別講座
（希望者）
1～4年次
3月頃

司書教諭課程履修登録
1～4年次
4月上旬

司書課程履修登録
1～4年次
4月上旬

司書課程学生相談会
（希望者）
1～4年次
11月～1月頃

学芸員課程履修登録
1～4年次
4月上旬

介護等の体験開始

3・4年次
（中学校教諭免許状取得希望者）
6月下旬
〜
2月初旬

教育実習

4年次
5月〜11月

教員免許状の交付

卒業時
（事前に申請した者）

3月

10ページ

学校図書館司書教諭講習修了証書の交付

卒業時
（事前に申請した者）

図書館実習
（希望者）

4年次
8月〜12月

司書課程単位習得証明書の申請および交付

卒業後（希望者）

30ページ

館務実習

3・4年次
7月〜9月

学芸員資格取得証明書

卒業時
（事前に申請した者）

3月

36ページ

目標を持つことと、目標から自由であること

専修大学教職課程協議会委員長　ネットワーク情報学部　教授　砂原由和

教育に関する議論を進めていくと、しばしば、二つの相矛盾する考えを同時に主張したくなるような地点に至ることがある。このような二律背反は、教育学ではいわば常識ともなっていることであるが、資格課程の教員として学生諸君に望みたいことについて思いをめぐらせると、やはり二つの、一見すると互いに矛盾するような考えに至ってしまうのである。

あらためて述べるまでもなく、資格課程の目的は、学校教育や社会教育関係の職に就くことを希望する学生諸君に、そのために必要な資格を取得させることであり、それらの職に就くためのサポートも本課程に課せられた役割の一つである。

これらの目的を達成するため、本課程では、通常のカリキュラム以外にもさまざまなプログラムを用意してきた。たとえば教職課程では、教職公開講座や教職特別講座を開設しており、昨年度からは、玉川大学との連携により、小学校教諭の教員免許取得に必要な単位を本学在学中に取得できる特別プログラムを立ち上げた。さらに今年度は、多摩区にある大学が連携して行っている「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」に本学も参加し、ボランティア学生の募集を開始した。学生諸君はぜひ、各自の目標に応じて、これらのプログラムを有効に利用して欲しい。目標を確実に見据え、そこに向かって着実に準備を進めることが目標達成のためにいかに大切かは、言うまでもないだろう。

しかし、ここであえて述べておきたいことは、だからといって大学生活を、ある固定された目標を達成するための手段としてだけ過ごすのはもったいない、ということである。

大学で過ごす数年間は、自らの進もうとしている方向を模索し、悩み、迷うことが許されている貴重な時期でもある。たとえば教職課程に引きつけて言うならば、教職の道を進むのが自分自身にとって最も良い選択なのかどうか、大いに迷ってもらいたい。もしも教職を選ぶとしても、教育者とはどのような存在なのか、公的な教育とは何なのか、既成概念を捨てて徹底的に考えてみてもらいたい。そういうことを、自由に、根底から考えることのできる場所こそが大学なのであり、教職課程の授業もまた、そのような精神によって営まれているはずである。

このような大学で過ごす貴重な時間を考えれば、先に述べたこととは一見矛盾するようではあるが、自らの目標を狭く固定的に考える前に、大学という知的な空間を自由に飛び回ってみてもらいたいとも思う。

目標をしっかりと見据えることと、固定された目標から自由であること。矛盾するかのようなこの二つの考えは、おそらく多くの人の中で併存し、時と場合に応じて人を導いているのではないかと思う。そういった人間の生き方を考えてみることもまた、教育学の課題なのである。

日本近代文学の足跡を海外に訪ねて

文学部　教授　高橋　龍夫

高等学校国語科の教科書に文学教材として必ず採用されている作家に、森鴎外と夏目漱石がいる。私も高等学校の教師をしていた頃、当初は鴎外の「舞姫」や漱石の「こころ」・「現代日本の開化」などを教材としてどのように扱えばいいのか、教材研究に苦心した記憶がある。

「舞姫」には、若き主人公太田豊太郎が留学先のベルリンに到着し、意気揚々と大通りのウンテル＝デン＝リンデンから遠方に構えるブランデンブルグ門、さらにはその遥か彼方にそびえ立つ戦勝記念塔までをも見渡す視線が、豊太郎の希望に胸を膨らませた思いと呼応させるシーンがある。試みに自分の授業にそういった観点からの読解を取り入れてみたことがあるが、たまたま授業参観に来ていた年もそう違わない教育実習生の参観ノートを後で見せてもらうと、授業の趣旨がわからなかった、と率直に記されてあって、少々落胆させられた苦い経験がある。留学から帰国する時の豊太郎の悔恨と自己不信に満ちた胸中とが対照的に浮かび上がってくるはずなのだが、そういった授業の流れは何時間もかけて授業を進めていく中でしか見えてこない。それはともかく、私の使っていた当時の教科書には、豊太郎のベルリン到着時の記述があるページに、おおよそそのシーンにあわせるようにブランデンブルグ門の写真が掲載されていた。また、別のページでは、普仏戦争勝利後の都市改造が進むベルリン市街の表舞台に位置する行政施設や大学を往復するばかりの豊太郎が、ある日の夕暮れに庶民の住む迷路のような回廊にふと足を踏み入れ、クロステル街の古寺の前で泣く女性エリスとの運命的な出会いをするシーンには、19世紀末のベルリンの地図やマリエン教会の写真が掲載されていた。当時のベルリンはシュプレー川を挟んで西側は近代都市の顔として整備される一方、東側はまだ庶民の住む下町が残っていたが、エリート留学生の豊太郎は、滞独３年目にしてはじめて庶民の暮らしの中に足を踏み入れることで、これまでに経験したことのない恋愛をめぐるドラマを体験することになる。ここには、23歳で陸軍軍医として1884年から約４年にわたってドイツに留学した森鴎外の経験が反映されている。

一方、「こころ」はともかくとして、夏目漱石の講演録「現代日本の開化」という評論は、比較的わかりやすい教材で、西洋の開化が「内発的」であるのに対し日本の開化は「外発的」であるため、日本は時間的にも精神的にも圧縮されて発展していくしかなく、そのプロセスの焦燥や圧迫に耐えるためにはできるだけ神経衰弱にならないよう留意するしかない、と結ばれている。教材研究をしていた当時、漱石のこの悲観とも諦観ともつかない結論に、どこか納まりの悪い気持ちを抱いていたが、1900年から約３年間、イギリスに留学した漱石自身の経験に基づいていることを知ってからは、神経衰弱という言葉の重みを感じるようになった。

当時20代の私は、ドイツやイギリスに行くことなど思いも及ばなかったため、教材研究や文学研究はテキストの精読と参考文献によって進めていくものと私個人の中では相場が決まっていた。もともと比較文学を専攻したくて大学に入学したのだから、今に思えば、アルバイトや奨学金などを利用してでも貧乏旅行をすればよかったのだが、時間に余裕のあったはずの学生時代はまた１ドル200円台だったはずであり、国語の教師になった後は円高になったが、今度は休日のない運動部顧問をしていたことで、まとまった時間がとれにくくなっていた。国内のフィールドワークはともかく、近代文学の作家は一一二葉亭四迷、森鴎外、島崎藤村、永井荷風、夏目漱石、与謝野晶子、上田敏、高村光太郎、有島武郎、谷崎潤一郎、芥川龍之介、横光利一、岡本かの子、林芙美子など数知れず、1880～1920年代に欧米や東アジアへの渡航経験を踏まえてそれぞれ独自の文学

夏目漱石の滞在した第５の下宿（ロンドン）

夏目漱石の滞在した館（ピトロホリ）

世界を展開しているのであるから、当然のことながら、日本近代の作家を研究するにも、渡航の実体験や海外の文学・芸術・思想との接点を踏まえる必要があるのである。近年、そういった視点から、19・20世紀に世界の文化・芸術の発信地となったパリ、ロンドン、ベルリン、上海などの都市における日本の作家の足跡を検証する研究も進んできている。

このような話題にふれているのは、私の入職した2003年度から日本文学文化専攻で始めた国際間ネットワーク共同授業というプロジェクトに当初から関わる機会に恵まれたからだ。この間、海外の日本文学研究者と交流し、ネットワークを通して日本向けに講義を依頼したり、国際間で学生相互の研究発表を行うといった企画に加え、海外の主要都市における日本近代文学の足跡を記録におさめて国内の授業に生かすという企画を試行錯誤しながら進めてきた。その一端を担当させてもらった私は、3年間でソウル、ケンブリッジ、ベネチア、フランクフルト、ハイデルベルグ、台北等の大学の研究者と交流することで、海外における日本文学の研究動向を僅かながら学ぶ機会に恵まれた。と同時に、教師をしていた頃からいつかは訪れてみたいと漠然と思っていたパリ、ロンドン、ベルリンなどに、近代文学の踏査として訪れることができたのである。

2005年は、ウィーンで日本文学研究者と会議をもつことに加え、「日本近代文学の足跡ーパリ編ー」という講義ビデオを作成するためパリを訪れることとなった。夏季休業中にパリの詳細な都市図を購入し、約1ヶ月かけて作家たちの滞在地や作品の舞台となったところを1つ1つ確認し、どのような順番で街を取材していくかをあらかじめ決めることにした。作家の日記や伝記などを調べると、居住地や訪問先を番地で探すことができた。パリは、あらゆる通りに名前が付いており、通り名と番地さえわかれば、80～100年ほど経った今でも、理論的にはそこにたどり着くことができる。地下鉄は大きな移動だけに用い、あとは歩くかバスを利用することを考えた。同行者は、このプロジェクトに当初から技術的な側面も含めて参加されたネットワーク情報学部の松永賢次先生である。ビデオ撮影を担当された松永先生もパリは初めてだそうで、シャルル・ドゴール空港に着いた時は、鉄道でパリ市内まで移動しようとして、私たちは正常に作動しない自動券売機に四苦八苦させられた。（後で知ったことだが、パリ市内までは、治安の悪い鉄道よりもバスを利用するのが一般的だった）

9月上旬のパリは、まだかなり暑かったが、セーヌ川をはさんだ右岸と左岸を中心に、旧市街を3日半、朝から晩までとにかく歩き回った。幸いなことに日没が20時過ぎなので1日10時間近く使えたが、その反動で精根尽き、最終日は2人とも朝寝坊という事態となった。しかし、永井荷風、岡本かの子、高浜虚子、島崎藤村、木下杢太郎、林芙美子、高村光太郎、与謝野寛・晶子、横光利一に関連した場所をほとんど見つけ出し、写真とビデオに収めることができた。（当時、彼らもよく足を運んだムーラン・ルージュは、今でも健在である。）他に、日本の近代文学に多大な影響を与えた19世紀のフランスの詩人や作家、画家ゆかりの地も訪れることができ、ゴッホ、ランボー、ボードレール、バルザック、サルトルなどの住居跡や出入りのカフェなどを見つけ出しては1人感銘に浸っていた。モンマルトル墓地では、デュマ、ゾラ、スタンダール、ユーゴー、ゴンクール兄弟などの墓碑を巡り、パンテノンでもフランスの思想家、文学者、芸術家の石棺を見ることができた。近代絵画を展示するオルセー美術館では、1910年代に『白樺』がモノクロ写真ながらも日本に初めて紹介し作家たちに創造

のインスピレーションを与えた絵画や彫刻を確認することもできた。ルーブル美術館でも、目当てのものを中心に2時間だけ廻った。これらの収穫は、帰国後、地図や画像、本文などを組み合わせたパワーポイントを作成し、講義を撮影したビデオと連動させて、一枚のCD-ROMに収めた。これによって、これまであまり関心のなかった木下杢太郎のような作家にも不思議と親近感を抱くようになり、パリに先着した与謝野寛を追いかけるため、日数のかかる船よりも高額なシベリア鉄道ルートで遠いパリまで急いだ晶子の胸中や、岡本一平・かの子夫妻と同居していた岡本太郎が、両親帰国後も1人パリに残ろうとした決意なども、共感できるようになった。一言で言えば、本当にその時そこに彼らが存在し、その時でなければ体験しえないものを彼等は実際に体験していたのだ、という過去へのリアリティーのようなものを実感でき、テキストという紙媒体の世界と現実世界の歴史性とが一致する感覚を味わえた。

さて、地図を片手にパリを歩くことにいわれなき自信？を得た私たちは、翌2006年には、海外日本文学研究者の講義撮影やネット利用授業の打ち合わせも兼ねて、ロンドンとベルリンを訪れることとなった。今回は両都市に関連する作家をそれぞれ1人に絞り、その足跡をたどることで理解を深める講義ビデオを作成する方針とした。そこで名が上がったのが、冒頭で触れた夏目漱石と森鴎外だった。

私は、この夏休みも、漱石と鴎外の日記や手記、随筆、及び伝記や留学関連の研究書などを1ヶ月かけて読みあさり、留学中に関連した場所や作品やエッセイの舞台となった場所を、地図を片手に確認していった。そうして事前にロンドンとベルリンをどのように歩き回ればよいか、限られた日程にあわせてプランを作成してみた。その際、どうしても気になったのが、後で述べるが、留学終了間際に「夏目狂セリ」と日本に報じられた漱石が帰国直前にふと訪れた、スコットランドにあるピトロホリという場所である。出張滞在の予算はロンドンまでなので、600kmも離れたピトロホリに行くにはもちろん自費となるが、あらかじめネットで調べたところロンドン－グラスゴー間なら格安チケットがとれることがわかり、松永先生と相談の上、日帰りの往復チケットを自宅からネットで予約した。（旅慣れている人なら当然のことなのかも知れないが、私は、このときほどインターネットの偉大さを実感したことはない。）

森鴎外記念館・鴎外の下宿していた部屋（ベルリン）

夏目漱石は、文部省から英語研究の目的でイギリス留学を命ぜられ、1900年10月から1902年12月までの約2年間、ロンドンに滞在した。自ら留学機関を打診しなければならなかった漱石は、ロンドン到着後、ケンブリッジ大学やロンドン大学を訪れるが、結局は独学を決意し、師事したクレイグ教授の家を週1回訪れるほかは、劇場や展覧会、書店をめぐる程度で、あとは下宿先で購入した書物を読みあさってはノートを取る日々に当てた。下宿先はロンドン市内で5回もかえたが、その理由は、支給されていた滞在費では学費や高い下宿代をまかなえなかったためである。一時期は、高い下宿代捻出のために、ビスケットをかじって昼食の代わりにしていたこともあった。実際、ロンドンで漱石が滞在した下宿先をたどってみると、当初、ロンドンでも高級住宅街に当る北西部に滞在しながら、テムズ川の南東部、庶民層の住む地域へと順次下宿先をかえていったことがその地域の雰囲気から実感することができた。また、帰国後に発表した短篇「倫敦塔」「カーライル博物館」「幻影の盾」「自転車日記」などの舞台であるロンドン塔やカーライル旧居、神経衰弱を癒すために自転車の練習をした公園などを訪れたことで、イギリスの風土を取り入れ幻想的な作風を書き残した漱石の創作意識をかいま見る思いがした。最大の収穫は、倫敦漱石記念館の訪問である。3番目の下宿先のファミリーの名が並んだ末端にSoseki Natsumeと記録された1900年の

イギリス国勢調査の記録用紙や、漱石が滞在中読んでいた当時の新聞”LONDON NEWS”、美術雑誌”THE･STUDIO”、留学中に漱石が購入した蔵書の一部などが保存されており、100年以上も前に1人でロンドンに滞在していた漱石を直に感じることができた。この記念館は、漱石が5番目に滞在した下宿と道路を挟んでちょうど反対側に向かい合うように建っており、間取りも全く同じである。館長夫人からうかがった話だと、恒松郁生現館長が1984年に漱石の下宿の建物を購入しようとしたが、所有者が居住していたため売買に出されるのを待って、とりあえず反対側の同型の建物を購入したのだという。ところが、2003年にその建物が売りに出された時には、ロンドンの物価高騰の煽りを受けて当時の3倍の値となってしまい、現記念館を売っても手に入れられる金額ではなくなってしまったそうだ。私たちが訪れた2006年9月時点でも、写真のように、まだFOR SALEの札が立てられていた。

漱石はロンドン滞在中の『日記』の中で、「日本ハ三十年前ニ覚メタリト云フ然レドモ半鐘ノ声デ急ニ飛ビ起キタルナリ其覚メタルハ本当ノ覚メタルニアラズ狼狽シツヽアルナリ只西洋カラ吸収スルニ急ニシテ消化スルニ暇ナキナリ、文学モ政治モ商業モ皆然ラン日本ハ真ニ目ガ醒メネバダメダ」と記録している。こういった西洋体験が、『現代日本の開化』の主張に実感として反映されているのであろう。ロンドンで1人下宿に閉じこもり、後に『文学論』として結集する＜文学とは何か＞という問いを体系づけようと必死に勉強していた漱石自身が精神的に参ってしまったのも、いわれなきことではない。漱石は、ロンドン滞在中、ほとんど旅行はしなかったのだが、先にも触れたように、帰国の迫った11月頃、突然、乗船予定の船を延期して、ロンドンから消え去り、ピトロホリという地に向かう。知り合いのイギリス人の招きだったようだが、その間の記録がほとんどなく、何日間滞在したのかも正確にはわかっていない。約2週間前後と推定されているが、自然に囲まれたハイランド地方のこの避暑地は、11月では既に冬の訪れを感じさせるほどひっそりとしていたはずで、漱石にとってはロンドンの喧噪と苦学からの癒しの旅となったのかも知れない。ロンドンから日帰りという厳しい日程の中で、飛行機と鉄道を乗り継いだ私たちの取材は3時間に限られたが、漱石が滞在した館は今でもホテルとして営業しており、ロビーの壁にあるパンフレットの棚には、訪問の労をねぎらうように、モノクロの漱石の顔写真が飾ってあった。森と草原に囲まれ川を見下ろす小高い丘陵に建つこの建物は、漱石の神経をどれほど休めたかは想像に難くない。

ロンドンを後にして、私たちは鴎外の足跡を追うためにベルリンに向かう。ちなみに、鴎外と漱石との共通点は、2人ともヨーロッパに留学の帰国後に小説を書き始めていることだ。鴎外は若くして医学を学ぶため1884年のドイツへ留学し、帰国後「舞姫」を書く。一方、漱石は熊本第五高等学校の教師であった30歳代に英文学研究のため1900年のイギリスへ留学し、帰国後「吾輩は猫である」を書く。鴎外は漱石よりも5歳年上だが、漱石の「三四郎」（1909年）に触発されて「青年」（1910年）を発表したりしている。また、鴎外は様々な翻訳作業を通して外来語の翻訳語を創り出し、漱石は創作を通して現代日本語の基となる熟語や漢語表現を生み出している。2人の存在がなければ日本の近代文学と日本語はどうなっていただろうか。

字数がつきてきたので、ベルリンにおける鴎外の足跡については簡略にするが、「舞姫」の舞台、鴎外の下宿跡、森鴎外記念館などを訪れることができ、特に鴎外の下宿跡を探していたら、番地が既に観光としても有名な立派なテレビ塔の真下となっていたことがわかったときは、ベルリンの壁消滅後の開発ラッシュも一役買って、隔世の感を抱かざるを得なかった。エリスの住んでいたクロステル街も、既に番地が途中で途絶え、幹線道路が貫いていた。しかし、古寺の跡は保存されており、当時をしのぶことができた。鴎外が訪れた1884年当時は、普仏戦争に勝利したドイツの繁栄をきわめた頃だが、それから約120年後のベルリンは、至るところで開発工事が行われており、モダン都市へと大きく変貌を遂げる時期を迎えていた。しかしながら、太田豊太郎がブランデンブルグ門を通してその遠方の戦勝塔を眺めるまなざしは、「大道髪のごとき」と喩えられたウンテル＝デン＝リンデンに立てば、120年を経た今でも容易に真似ることができた。日本の近代文学120年分のパースペクティブが、ここに込められているような気がした。

昨今の日本語ブームの中で、正しい日本語、美しい日本語、といったキャッチフレーズを眼にする機会が少なくない。それは、歴史的に見れば、上田万年のドイツ留学によって1900年に「国語科」が制定され日本語文法が整備されてきたことが潜在的に拠り所となっていよう。だが、渡航体験の衝撃とともに変動した文化や思想、人間観や世界観を表現しようと日本語と格闘してきた近代文学の作家の営為が、結果的に日本語をブラッシュアップしてきたのだということも、近代文学の足跡を海外にみることでより自覚的になれるのではないか思うのである。

教 職 課 程

卒業生から（国語）

埼玉県私立東京農業大学第三高等学校教諭　東　真哉（平成12年文学研究科国文学専攻修了）

私が大学に通っていた頃は、いわゆる就職氷河期と言われた時代で、多くの学生が卒業後の状況に底知れぬ不安や焦りを感じながら日々就職活動をしていた。そんな中、私は教師を目指していたこともあり、自分自身のレベルを高めたいという思いから大学院へ進学した。専修大学（文学部国文学科）、さらに大学院（文学研究科国文学専攻）での７年間はかけがえのない貴重なものであり、私自身を大きく成長させてくれたと、今改めて実感している。

当時を振り返ってみると、ゼミの枠を越えた先生方や学生たちとの交流により見識を深め、また教師を目指す有志による研究会にも参加し、仲間から刺激を受け、切磋琢磨しながら、教師になりたいという夢の実現に向けて精進していた。そこでの経験は間違いなく今の私自身の糧となっている。

当時は教師の道も今よりもずっと狭き門であったため、なかなか採用されずに苦労した。大学院修了後、１年間、私立高校の国語の非常勤講師として教鞭を執った。非常勤講師時代には専任教員の募集があれば、それこそ片っ端から応募していたことを思い出す。しかし、それでもなかなか決まらずに、次年度も非常勤講師として働くことを決意した矢先に、潜り込みで別の私立高校での専任教員としての採用が決まった。相当な不安や焦りがあった中でも最後まであきらめずに挑戦し続けた成果だと、自分自身で手応えをつかんだ瞬間だった。その学校で５年間勤務した後、昨年度から現在の学校に勤務している次第である。

体育祭での１コマ最上段左側がが私です。
（旗を持っている人物です）

教師生活８年目の私であるが、様々なことを経験してきた。教師という立場でしか体験できないこともたくさんあり、そのすばらしさ、やりがいを感じる一方で、また難しさも痛感している。同じことを言っても生徒一人ひとりの反応が異なるのは当然であるし、同じ生徒相手に同じことを言っても、前とは違う反応をする場合もある。教師も生徒も同じ人間、お互いのその時の気持ちのあり方によっても、伝わり方、受け取り方は様々であり、それを取り計らっていくことこそがコミュニケーションであると私は思う。このコミュニケーションが一方に偏ったり、不足したりする時、そのバランスが崩れ、人間関係さえも崩れていってしまうように思える。

そのようなわけで、私は生徒一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしながら日々取り組んでいる。このコミュニケーションを図るにあたって大切なことは、お互いが信頼し合うということである。私はそのために、その生徒の十年後のことを考えて話をするということを常に心掛けるようにしている。この生徒は十年後はどうなっているか、そのために今すべきこと、必要なことは何か、ということを根底におき、接するようにしている。そのような気持ちで接するだけでも生徒との関係において必ずプラスとなる部分が表れると、経験を通して私なりに確信している。

それから、自分自身の中に常に探究心を持ち続けることが大切である。そして、自分はこれだけは絶対に誰にも負けないと自信が持てるものを作ることである。教科

修学旅行（オーストラリア）での１コマ
左から２番目が私です。

指導にせよ、それ以外の指導にせよ、教師たるもの、その模範となるものを示すことができなければならない。常に指導の中身や技術を高めようという意欲を持たなければ、その成長はあり得ない。探究心、向上心を持ち続けることは教師としての資質を高める第一歩であると考える。

かく言う私もまだまだ未熟者であり、その実践は思うようにはできていないのが現状であり、反省することばかりである。しかし、そのような意識と決意を胸に抱き、取り組むことは最低限必要なことではないだろうか。そしてその精神は必ず生徒にも伝わるはずであると信じている。

教師というものは、生徒の人格形成における最も重要な時期に教育者として携わるわけであるから、その責任は計り知れないものがある。そのことに対する自覚は決して忘れてはならない。そしてまた、それだからこそ、教師は他にはないすばらしい職であると言うことができるのも事実である。十人十色の教師像があるからこそ、無限の可能性を秘めたやりがいのある職であると言えよう。

今、私は自分にとって教師は天職であると胸を張って言える。そして自分が教師であることを誇りに思っている。今後も自分自身の更なる飛躍を求め、日々精進し、教師としてのすばらしき人生を歩んでいきたい。

卒業生から（英語）

東京都私立専修大学附属高等学校教諭　滝澤　武（平成５年文学部英米文学科卒）

私が教職の道を志したのは、大学３年のころでした。もちろん、教職課程を履修していましたので、教員免許を取りたいという思いは大学入学以来持っていたのですが、自分の将来や職業について具体的に考え始めたのは、大学３年の始めごろだったと思います。しかし、自分の将来の仕事として、真剣に英語の教員を目指そうと思い始めるにつれて、私には少しずつある不安が募ってきました。それは、自分の英語力や英語に関する知識は、今のままでよいのだろうか、というものでした。果たして、自分はこのまま教壇に立ってよいものだろうか、と考えることが多くなってきたのです。その思いは次第に、せっかく英語教員を目指すなら、もう少し英語力を鍛えよう、という方向に変わり、英語圏への留学を考えるようになりました。そして、「どうせ長い人生なんだし、ここで１年くらい留学して自分を鍛え直したとしても、それは無駄ではないだろう」、と留学を前向きに考えるようになったのです。留学に際しては経済的な問題もありましたが、私は運よく、ロータリー財団の国際親善奨学金をいただけることになりました。また、留学先の大学や専攻については、専修大学の先生方が親身になって相談にのってくださり、様々な貴重なアドバイスをくださいました。私が無事留学することできたのも、多くの先生方のおかげだと、今でも心から感謝しております。初めての海外生活や大学院での専門的な授業など、生活と勉学の両面において、留学生活には苦労も多かったのですが、その分、充実した毎日だったと感じています。留学を無事終え、日本に帰国して教員への道を模索している中、台湾の友人より、台湾の大学で日本語教師を探しているが応募してみないか、との誘いがありました。これはきっといい経験になるだろうという少し軽い気持ちで応募したところ、すぐに採用が決まり、渡台することになりました。台湾の社会や文化も、中国語も、そして、日本語教育も初めての経験だったため、そこでもまた苦労の連続でした。しかし、結局は５年間台湾で暮らすことになった訳ですが、その中で一つとても貴重な経験となったことは、耳から言語（中国語）を覚えるという経験をしたことでした。耳で聞いた中国語のフレーズや文から言語のルールを推測する「帰納的」な言語習得（学習）の経験が多少なりとも出来たことはよい経験になったと今でも思っております。

ハンドボール部（３列目左端が私です）

私は３年前に日本に戻り、現在は、専修大学附属高等学校で英語の教師をしておりますが、高校の現場で英語を教えるというのも勿論、これが初めてです。始めは生徒との接し方や授業の進め方などで悩むことが多かったのですが、諸先生方からアドバイスをいただきながら試行錯誤し、最近、ようやく慣れてきたと感じています。それと同時に、生身の人間を相手にする「教育」というものの難しさや奥の深さをますます実感しています。それだけに、教師とは本当に遣り甲斐のある仕事だとも感じています。自分を磨けば磨くほど、生徒にもそれが還元でき、また、生徒に教えることを通して自分も多くのことを学んでゆけるのが教師です。

放送部（後列右端が私です）

大学を卒業してから自分がこれまで歩んできた道を振り返ってみると、常に何か新しいことに挑戦してきたように思います。意図的にではなかったのですが、結果として、新しい経験を通して私は様々なことを学んできました。これから教員を目指そうというみなさんも、時として挫折を経験したり、遠回りをすることがあるかもしれません。でも、それは決して無駄な時間などではなく、なんらかの形で自分を成長させる経験になっているということを忘れないでいてほしいと思います。

人の命は限りあるものですが、人の可能性は無限です。それと同じように教育の可能性もやはり無限なのだと信じています。今、少しでも教職の道を志そうと思っている皆さんは、この可能性に自分の人生をかけてみてはどうでしょうか。教師の仕事は、思った以上に苦労が多いものです。ただし、苦労が多ければ多いほど、それだけ大きな喜びを実感できる仕事だと思います。さあ、私たちと一緒に教育の世界で頑張ってみませんか。

卒業生から（社会）

静岡県菊川市立菊川西中学校教諭　岩本　知之（平成11年商学部商業学科卒）

子どもたちと共に汗をかき、笑い、喜びあったこと。子どもたちに想いを上手く伝えられず悩んだこと。嬉しかったこと、悲しかったこと、どちらが多いかわかりませんが、自分なりに考え、先輩たちの教えを受け、日々ベストを尽くし、教員6年目を迎えました。

少しずつ子どものこと、学校のこと、それらを取り巻く社会のことが見えてきた現在の私には、大きく分けると学級経営、教科担任、校内分掌、部活顧問の4つの仕事があります。

今年度、私は3年生の担任となりました。最上級生となった生徒たちは6月にあった体育祭（本校では校章の黄菊に因み黄菊祭体育部門と呼んでいます）の中で、本校伝統のパネル応援に取り組みました。パネルに描き出される文字や絵、応援の進め方などの原案を考え、下級生たちを指導し、体育祭本番では1番のパフォーマンスを披露しました。生徒の自分たちの想いを実現する力に改めて驚かされた出来事でした。また、本番を迎える過程の中で生徒と共に考えたり、生徒たちを励ましながら共に歩んだ日々は、私の中の財産として残っています。

授業では、今年度は公民を教えています。人権を扱う単元の中で、生徒たちは自由や平等について自分の考えを堂々と述べ、議論を交わしました。まとめで「平等とは、これまではみんなが同じ立場で、同じ条件でと、全てが同じことという感覚で捉えていました。しかし、勉強をして、性別や人種の違いを考えて、その人たちの為に違いをつくることも平等と思うようになりました」という考えを持つ生徒が現れました。生徒たちの深く考える力、今の世の中を真摯な目で見つめ、よりよく生きていこうという想いに日々関心をしています。

学校内の役割として、特別活動部部長（体育祭などの行事、総合学習や学活の時間など、特別活動に関わることを計画・運営していく部門。本校では活動づくり部と呼んでいます）と生徒会担当を受け持っています。生徒が活動や体験を通して成長することを促進するのが目的です。生徒も生徒会本部の目標「Act by myself～すべての行動は自分から～」を意識して、様々な活動に生き生きと取り組んでいます。この部のやりがいはなんと言っても生徒に感動を味合わせることです。仲間とともに協力し、何かをやり遂げた時の喜びや自分の生き方を少しずつ考える感慨深さを感じ取る場面を提供し、心を成長させることです。

部活動は男子ソフトテニス部の顧問をしています。部活動は、生徒の仲間を想う気持ちを育てたり、努力の大切さを感じ取らせる力を身に付けさせるものです。私たちもテニスを通して成長することを念頭に、コートで大きな声を張り上げ、気持ちを前に出しながら、日々汗を流しています。生徒が必死になって練習する姿は尊く、自分の目標を達成した時の晴れ晴れしい姿からは、確かな成長を感じることができます。

社会の変化に伴い、学校教育は難しい状況になりつつあるかもしれません。しかしながら、子どもたちの努力している姿や仲間と協力し合っている姿は、いかなる時代であっても掛け替えのないものであり、その場面を提供していくことが教職員の大切な使命の一つだと思います。不易と流行という言葉がありますが、私たちは、学校教育において何をなすべきかを具体的に捉え、それらを生徒にわかりやすく伝え、指導していく力が求められていると思います。即ち、これが教職員にとっての不易に相当する部分であると思います。

体育祭にて

卒業生から（社会）

東京都私立武蔵工業大学付属中学校．高等学校教諭　相馬　武（平成12年文字研究科地理学専攻修了）

6年間過ごした生田での学生生活を終えて、非常勤講師として教壇に立ったのが2000年の春のこと。2年間の非常勤講師を経て、現在専任教諭6年目の秋を迎えています。つい先日まで学生だったような気がしていますが、結婚していつの間にか30歳代に突入し、更には20歳代の若い先生の着任もあって、いつの間にか「若手」から「中堅」へ歩みを進めていることに否応なく気付かされる毎日です。

教職という仕事に就いて常に感じていることは「忙しい」ということです。授業はもちろんのことですが、クラス運営や校務分掌、クラブ活動も任せられています。この4つが大きな柱となるのはどの学校でもほぼ同じかと思いますが、当然どれも手を抜くことはできません。相手がいる仕事や締め切りがある仕事から進めてゆく結果、最後に残るのが自分の授業準備といった状況で、退勤が22時を過ぎるのもめずらしくありません。楽しい仕事ではあっても、決して楽な仕事ではありません。忙しいながらも頑張れるのはやはり「この仕事が好きだから」という理由に行き着きます。

この仕事のすばらしいところは生徒の成長を身近に感じられるところと、生徒とともに喜びを分かち合えるところではないかと思います。生徒に寄り添い励ましていく過程で、生徒がきっかけとなる何かをつかんでグンと伸びていく場面に遭遇することが多々ありますが、その瞬間を生徒とともに感じ、一緒に喜ぶことができることは何物にも代え難いものです。それは学習だけでなく、部活動や委員会活動などさまざまな場面でみられます。学園祭の運営委員会の顧問をしていた昨年秋には、新校舎初の学園祭を無事に終えることができて生徒とともに涙した事もあった位です。生徒たちが自ら考え、気づくことが大切ですから、できる限り「待ってあげること」、その過程を「見守ること」が重要になるのですが、これが教員にとって歯がゆく、苦しいところでもあります。答えや結論を大人である教員が述べてしまえば、事はスムーズに進むのですが、肝心の生徒の「気づき」は失われてしまいます。そこを耐えるからこそ、生徒とともに喜びを感じることができ、信頼関係を築くことができるのかも知れません。一方で、難しいと感じるところもあります。保護者対応がその典型といえますが、保護者と教員間の衝突や保護者同士での衝突もまれにみられます。価値観は人それぞれ違いがありますから仕方ない点もありますが、主張する人々が多くなってきている世の中を考えると当然の流れなのかも知れません。生徒に対しても保護者に対しても、まずは相手の考えにきちんと耳を傾けることが大切だなと感じています。

この文章を読んで下さっている皆さんは、教職を希望されている方が殆どかと思います。夢や希望は当然大切なことですが、それだけでは採用試験の突破は難しいかと思います。まずは当面の計画を立ててきちんと進めることが大切ですし、今できることを一つ一つ着実に進めてほしいと思います。教員免許はできる限り中学・高校の両方を取得しておいた方がよいかと思います。社会科に関しては中学社会・高校地歴・高校公民の3種類となります。免許が欠けているから教員になれないというわけではありませんが、幅広く教えることができる方が採用する側にとっては都合がよいものです。私立校はいうまでもありませんが、公立校でも中高一貫校がみられるようになってきた状況を考えると尚更です。私自身、学部卒業時には高校地歴の免許しか持っていなかったことから、大学院時代に中学社会、非常勤講師2年目に高校公民の免許を取得しました。特に高校公民の免許を取得する際には、昼間は教壇で授業をしつつ、夜は神田校舎で教職の授業を受けるといった状況で苦労しました。大学・大学院と地理学を専政した私ですが、中学生を担任した際には地理の他、当然歴史や公民も教えましたし、現在担任をしている高校1年生には現代社会を教えています。教員になると専門的な知識の深さは当然として、更に教えることのできる科目の幅も求められます。自ら学ぶ姿勢がないと務まらない仕事です。教員になるからには「一生勉強」を覚悟しないといけないのかも知れません。

何だか偉そうな事をたくさん記してしまったような気がしていますが、私自身も学生の頃、そして教壇に立つようになってからもこの “passo a passo” を毎年欠かさず読んでおり、先輩方の経験から自分なりに学んできたつもりです。チャレンジを続ける後輩の皆さんを蔭ながら応援しています。いつかじっくりお話しする機会を持てたらいいなと思いつつ筆を置きたいと思います。

卒業生から（商業）

鹿児島県私立鹿児島実業高等学校教諭　永野　武治（平成16年商学部商業学科卒）

私は平成16年に商学部を卒業し、その年の４月から学校法人川島学園鹿児島実業高等学校に期限付教諭として採用され、17年の４月からは教諭となり現在も勤務しています。文理科・普通科・総合学科と３つの科があり、私は総合学科の中にある、情報ビジネス系列の教諭をしています。情報ビジネス系列は商業の勉強をする系列です。

現在、３年総合学科Ｃ組の担任です。このクラスは高校に入学してきた２年前から担任になりました。教師生活１年目は副担任として学級経営のやり方などを先輩の先生方から学びました。そして、自分が担任を持ってクラス経営をしていくなかで多くの事を学びました。『担任を持って一人前の教師だよ』と先輩の先生方からよく言われていた言葉の意味が少しずつ分かってきたような感じでした。クラスはいろいろなタイプの生徒がいます。しかし、教師というのは全ての生徒を平等に見て、指導していかなければなりません。うまく指導が出来なかったり、注意するときの言葉の使い方が難しかったりと悩んだりした事もありました。しかし、いつも笑顔で登校している生徒達に元気と活力をもらい頑張ることができました。高校生は難しい年頃ですが姿を毎日見ていると、日に日に成長していることが分かります。教師という仕事はたくさんの苦労もあると思いますが、生徒が成長している姿を見ていると教師冥利に尽きると私は思います。

私は週に18時間の授業を持っています。「簿記」「情報処理」「商業技術」などの商業科目を教えています。総合学科の生徒は高校を卒業すると就職をする人がほとんどです。高校を卒業するとすぐに厳しい社会の中に出て行くわけですから、普段から基本的なマナーや、礼儀作法はきちんと指導するようにしています。挨拶がしっかりできることは人間としてとても大事なことだと私は思っています。高校時代に人間として基本的なことをしっかりと教えることも我々の仕事です。私は特に、授業の始まり・終わりの挨拶は全員がしっかりできるまでやります。これは簡単なことですがなかなかできません。生徒が将来、社会に出て恥をかかない為にもマナーや礼儀などはしっかり指導をして行きたいと考えています。

大学時代、私は相撲部に所属していました。そして現在、鹿児島実業高校で相撲部の監督として高校生を指導しています。大学時代に相撲を通して多くの事を学びました。専修大学は多くの部活動が有名で素晴らしい友人にも出会いました。高校生を指導している現在、大学時代に学んだことはとても役に立っています。高校生は何でもすぐ吸収できる年代で指導をしていてもとても楽しいです。今年は佐賀県で行われた全国高等学校体育大会の相撲競技に団体戦で出場しました。部活動を通して人間教育をしていきたいと思っています。

専修大学の教員を目指しているみなさん、多くのことを学び、素晴らしい教員になってください。応援しています。私も卒業生として後輩に負けないように一生懸命頑張って行きたいと思います。

卒業生から（小学校）

東京都杉並区立杉並第五小学校　教諭　島田　和崇（平成11年　文学部人文学科卒）

私は現在、東京都杉並区にある杉並第五小学校で５年生の担任をしています。専修大学を卒業して７年が経ちますが、他の教職についておられる先輩方や、教職を志している学生のみなさんとは、すこし違う道を歩んで今この場所にいるようにも思えます。

私が「教員」という仕事を一生の仕事として意識したのは、大学４年生になってからでした。採用試験での厳しい現実、多岐にわたる知識や豊かな人間性を要する教員という仕事に対して、自分には荷が重過ぎる、というのが最初のイメージです。

しかし、就職活動の時、本当にやりたいことはなんだろう、一生の仕事として身を捧げるべきことはなんだろうか、という自問に対して出した答えが、自分にとって荷が重過ぎると思っていた教師という仕事に取り組むことでした。もともとスポーツをやっていたこともあり、人とかかわったり、人にものを教えたりすることは大好きでした。そのことが自分の気持ちを後押ししてくれたのかもしれません。

しかし、当然教師として教壇に立つためには、あらゆる知識も技術も、経験も足りませんでした。もともと教師を志していなかった私は、塾の講師はおろか、家庭教師さえしたことがなかったからです。そこで教職課程の担当であった商学部の蔭山雅博先生のもとを訪れ、相談に乗っていただきました。思えば、これが私にとって転機となりました。卒業後、大学院へ進学し、教育学を改めて学びなおし、深める機会を得たのです。

大学院を修了後、私は小学校と高校で１年ずつ講師を務めました。あくまで講師としての視点からですが、大まかに言うと、高校では自分の専門知識を存分に生かす楽しさがありました。学部や大学院で学んだ知識を存分に活用し、その結果は学内試験やセンター試験の得点で如実に表れます。また、生徒が大学入試に受かった時の喜びや、生徒と将来の不安や生き方を話し合う面白さは忘れられません。生徒の生活指導が難しい反面、部活指導などでも自分の知識や経験をいかすことができました。一方、小学校は全教科を担当するため、専門教科を生かしにくいという側面があります。しかし、毎日８時間近くを子どもたちとクラスで共に過ごす中で、勉強だけでなく、心身両面を含む、様々な面での成長を感じ、手助けをすることができます。私は３年目の採用試験で小学校と中学・高校に合格しましたが、子どもたちの成長を見守り、人間性の形成の第一歩をともに歩みたいと願い、小学校を選びました。

日々学校で子どもたちと過ごしていて感じることは、教師は様々な視点をもっていなければならない、ということです。様々な家庭的な背景や、児童の能力に鑑み、どのようなアプローチで指導すべきかを試行錯誤していきます。そのためには、その子の持つ長所・短所といった特性をどう見るか、短所を長所として見たり、逆に長所をさらに伸ばすために短所として見て指導したりしていくこともあります。日々の何気ない一言や、変化にも敏感でありたいと思います。

学校にいる間は、色々なところにアンテナを張り巡らし、ほとんど気が抜けませんが、不思議と疲れは感じません。こちらの熱意を持って取り組むことは、不思議と子どもたちにも伝わり、そのことが何倍もの喜びになって疲れを吹き飛ばしてくれます。学期最後に子どもたちが『先生おつかれさまの会』を開いてくれたことや、結婚したとき、本を作ってみんなでお祝いしてくれたことなどは、特に忘れられない思い出です。

中央が筆者

今、小学校では団塊の世代の先生方が定年を迎えることもあり、採用数が大きく伸びてきています。また、小学校と中学校の連携を重視する動きから、どちらかの免許を持つことで、大きく採用への道が開かれると思います。子どもたちに触れ、その成長を見守り、添って歩むというこの仕事は、何にも変えがたい特別な魅力があると思います。教員を志す学生の皆さんが、一人でも多くこの魅力にふれることができるようになることを祈っています。

卒業生から（特別支援教育）

千葉県船橋市立薬円台小学校教諭　菊池　亜希子（平成９年法学部法律学科卒）

特別支援教育に携わり６年目を迎えました。今はこの仕事をしているのが当たり前のように感じますが、学生時代は高校の公民の教師を目指していました。大学の進学に際してはいろいろな仲間とより出会えそうな教育学部以外の学部に進学し、教員免許を取る事にしました。

卒業した頃は教員の採用人数はどの県でも「若干名」でした。教員以外考えていない私はアルバイトをしながら勉強をしていました。そんな時に登録していた浦安市から「補助教員」の仕事の依頼があり、これが私の転機となりました。補助教員とは特殊学級（現特別支援学級）や通常学級に在籍している障害を持った子どもたちの介助を行う立場です。

私は特殊学級の補助教員として赴任しました。それまで特殊教育自体よく知らなかった私でしたが、毎日子どもたちと過ごすうちにその仕事に魅せられ特殊教育の教員を目指すようになりました。仕事を続けながら佛教大学の通信教育で免許を取り、大学卒業から５年後の平成14年、千葉県の市立船橋養護学校（現特別支援学校）に赴任しました。

養護学校では高等部と小学部にいました。高等部では就労や卒業後の生活を念頭においた指導が中心に行われます。学校生活も作業中心で子どもたちは毎日同じことを操り返しながら、日に日に自分の技術が高まりいい製品が作れることで喜びや自信を身につけていました。小学部では子どもたちがいきいきと活動することを目指して生活を組み立てていました。体育館いっぱいに子どもとともに大型滑り台のある遊び場を作って遊び込んだり、木を伐採して丸太で校庭に遊具を作ったり、石釜を作ってピザや炭を焼いたり、自転車に乗る練習をして印旛沼でサイクリングをしたり…子どもたちの特性や興味関心を考えながら学年や学部の先生方と協力し単元を作っていきました。

近くの公園で全員集合

薬円台小学校の特別支援学級（ひまわり学級）に転勤して今年で３年目です。転勤した年は校内行事や日常生活の時間の流れについていくのがやっとでした。２年目からは主任という立場になり、学級運営だけでなく学校全体の運営などにも携わる身となりました。

特別支援学級の担任は在籍児童８人に１人となっています。船橋市内の特別支援学級の担任は児童の数に応じて１人～３人。今年度は児童11人に担任２人（私と講師）、介助員の３人です。学級経営においては校内で先生方の理解と協力が不可欠となってきます。生活単元学習で大がかりなことをしたい時や校内行事など、担任だけではどうにもできないこともあります。そんな時、通常学級の先生方と普段からいい関係を築いておくことが大切になります。子どもたちが校内で愛され存在感を持つためには、まず特別支援学級の担任が校内の先生方や通常学級の子どもたちと上手に付き合っていることが大切だと思っています。

また、子どもたちとは常に正直でありたいと思っています。共に笑い、共に喜び、共に感じる。そして褒める時も叱る時も誰にも公平に。子どもだからといってごまかさずに、自分が間違えたときは素直に謝り、子どもがいけないことをした時は思いっきり叱る。叱る時は子どもたちに「私の大好きな子がやってはいけないことをして悲しい。あなたが嫌いで怒っているのではない」ということが伝わるように心がけています。教育は「共育」。

合同宿泊（市内の４,５,６年生が参加）のハイキングに出発

子どもと教師が共に育み合い共感しあいながら営まれるものだと私は思います。今後も子どもの笑顔を心の糧にがんばっていきたいと思います。

教員採用試験体験記（国語）

東京都立川市立立川第七中学校教諭　木内　香織（平成16年文学部国文学科卒業）

私が教員になりたいと明確に思い始めたのは、教育実習が終わってからでした。自分自身、学校や先生が大好きであったし、教育には興味があったので、教職課程は履修していたものの、実際に自分が教員になるなんて、正直なところ思っていませんでした。教育実習は、決して上手くいったとは言えない内容でした。しかし、もっと教育現場にいたい、生徒とかかわっていきたいと強く感じたのです。このまま終わらせたくない、そんな思いから、本気で教員を志すようになったのかもしれません。４年生の後半から教員を目指した私の体験が、現在教員を目指しているみなさんのお役に立てるのかわかりませんが、ひとつの例として読んでいただけたらと思います。

私が初めて東京都教員採用試験を受験したのは、大学を卒業した年です。この年は不合格。もう一年頑張ろうと思っていたときに、臨時的任用教職員の募集のことを思い出しました。東京都公立学校臨時的任用教職員（妊娠出産休暇・育児休業補助教職員）の募集は、年２回あります。書類・面接による選考があり、合格すると候補者名簿に登載され、臨時的任用教職員（以下、臨任教員）が必要な学校から連絡が来れば採用されるという流れです。採用試験の募集要項をもらいに行った際に、この臨任教員の募集要項を見つけ、その存在を知りました。せっかくのチャンスなので、とにかく挑戦してみようと思い、選考を受けました。私は後期の選考を受けたので、名簿登載されたのは１月。どの学校からの連絡も来ないまま３月中旬になり、今年はもう無理かとあきらめていた矢先に連絡が来ました。それはなんと、伊豆諸島にある神津島の高校からでした。電話で学校についての話をいろいろ聞き、一晩で答えを出してくれと言われたのです（正確には10時間くらいしかありませんでした）。迷っている暇はありません。生まれて初めて神津島の存在を知った翌日には、行きますと答えていました。今考えると、よく決めたな、と思います。しかし、この機会を逃したら、自分が教壇に立つことはないかもしれない、やるしかない、という思いのほうが強かったのです。

もともとは１年間の契約だったのですが、私は２年間、都立神津高校に勤務しました。神津では自然の偉大さに圧倒されてばかりでした。神津の生徒はそんな自然によく似ていました。穏やかにこちらを包んでくれることもあれば、手がつけられないくらい荒れることもある。ぶつかり合うこともありましたが、笑いあうこともたくさんありました。神津で過ごした２年間では、本当にたくさんのことを学びました。

神津に行った年の採用試験は、日々の仕事のなかで十分な準備が出来ず、１次試験も不合格という結果でした。採用試験に失敗したからというだけではありませんが、もう１年いられるという状況になったので、残ることを決めたのです。東京都の採用試験では、12ヶ月以上の勤務実績があると、１次試験の教職教養、専門教養が免除されます（一般選考の特例（ア）にあたる）。特例受験をし、２年目は１次試験に合格しました。１次試験の合格が通知されてからは、ひたすら面接対策をしていました。面接対策には、模擬面接が一番だと思います。私は勤務先の先生方からの紹介で、都立高校の校長先生に面接していただく機会が２回ありました。しかし、これは勤務経験が無いとなかなか難しいことだと思います。そういう時は、資格課程の先生に相談してみるとよいと思います。私も在学中お世話になっていた先生に、模擬面接をしていただきました。面接対策に一問一答ノートを作りましたが、これは自分のなかで曖昧になっている部分に気づくことも出来るのでおすすめです。自分の考えをまとめ、それを誰かに見てもらうことが一番ではないかと思います。その年の試験に合格し、現在に至ります。

現在は中学校に勤務しており、そこで演劇部を新設させていただきました。生徒も私も１年生、試行錯誤しながらともにがんばっています。苦労することもありますが、生徒と共に歩んでいくことに、日々幸せを感じます。教員を目指しているみなさんには、いろいろな体験をしてもらいたいと思います。教職と関係ないようなことでも、授業や生徒とのかかわりの中で役立つことはたくさんあります。回り道と思わずに、チャンスがあったら挑戦して、視野を広げていってください。みなさんが教壇に立てる日が来ることを、心からお祈りします。

最後列一番右側が筆者

教員採用試験体験記（英語）

神奈川県立総合教育センターカリキュラム支援課研究開発班　竹久保　明弘（昭和60年文学部英米文学科卒）

英語教師を目指す、愛する母校・専大の皆さんへ！

私は、小・中・高・大学を通してすばらしい先生方と出会いました。特に、中・高等学校時代の担任の先生、英語の先生、部活顧問の先生の影響は大きく、その頃から「俺もこんな先生になって、生徒とかかわっていきたい！」と教師になることを志しました。今の私自身のベースになっています。昭和60年採用で教壇に立ち、以来20年間、「熱く温かく」をモットーに、当時の新設校、農業高校、進学校と、全くタイプの異なる3つの高校で、英語、部活、行事、その他諸活動を通じて生徒とかかわってきました。いわゆる「生活指導」の面でも、生徒に体当たりでぶつかり、様々な経験をしてきました。そして、多くの「宝者」と出会うことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。現在は学校を離れて3年目になりますが、教育行政の立場から、児童・生徒、先生方、学校を支援する業務に取り組んでいます。

さて、国際社会であるだけでなく、事象・事物がめまぐるしく変化し多様化する現代の社会において、これからの英語教師に求められる資質能力とはどのようなものでしょうか…。まず、時代や価値観がどんなに変化しようとも、「教師の職務として必然的に求められる資質能力」は不変です。それは、生徒や教育の在り方に関する適切な理解、教職に対する愛着・誇り・一体感、教科指導や生徒指導等のための知識・技能・態度です。その上で、地球・国家・人間等に関する適切な理解、豊かな人間性、国際社会で必要とされる基本的な能力などの「地球的視野に立って行動するための資質能力」、コミュニケーション能力をはじめとする課題解決能力にかかわるもの、人間関係の構築にかかわるもの、外国語のコミュニケーション能力を含む自己表現能力をはじめとする社会の変化に適応するための知識及び技能といった「変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力」が必要になります。

平成15年に発表された「『英語が使える日本人』の育成のための行動計画」では、学校英語教育における「英語による実践的コミュニケーション能力」の育成を目指し、「中・高等学校を卒業したら英語でコミュニケーションができる」、「大学を卒業したら仕事で英語が使える」という達成目標が設定されました。そして、「英語の授業の改善」や「英語教員の指導力向上や指導体制の充実」が推進されています。そのような状況の中、教師の英語運用能力は教科指導を行う上での必須条件になっています。

生徒の英語による実践的コミュニケーション能力を育成するための教師の英語運用能力と指導技術は、いわば「車の両輪」の関係にあり、どちらか一方が欠けても、効果的な授業実践を行うことはできません。日本のように、英語に触れる機会や、使用する英語の質や量に対する日常的な必然性が存在しない状況においては、「英語を自然に使う必然性を生み出すような場」や「人と人とのコミュニケーションに楽しみ、喜び、難しさを見出すことができる場」を授業の中に作り出す必要があります。また、生徒に言語事象や文化に対する関心を深めさせ、国際理解を得させるためには、生徒の理解できる表現でコミュニケーション活動を工夫することと、英語そのものに関する深い洞察力も必要になります。さらに、教科に関する知識や内容について深い理解をもっているだけでなく、それらを生徒が咀嚼しやすい形で提示できる技量を有していることも必要です。

だからといって、英語による実践的コミュニケーション能力を育成するために努力することだけが、教育目標における教師の職務の主たる部分を占めるわけではありません。教科指導には「授業への積極的な参加を促し、学ぶ意欲や興味を喚起すること」、「受験対策」なども含まれます。また、教科そのものの指導とは別に「生活指導」、「部活指導」、「進路指導」、「学校行事」等も重要な教育活動です。さらに、学校によって、生徒の英語学習状況は様々です。「こんなはずじゃなかった…」という現実にぶち当たることもあり、英語運用能力に長けているだけでは教師は勤まりません。「授業」が基本であることは言うまでもありませんが、教室や様々な場面で生徒に積極的にかかわり、彼らを掌握し、彼らとの間に適正な人間関係を構築することを忘れてはなりません。教壇に立つ限りは、生徒の英語による実践的コミュニケーション能力の育成に有効な、生徒を引きつける指導技術を磨くことが大切ですが、個々の教室現場や生徒集団に即応した形でしか効果的に学べない指導技術もあります。そのような指導技術を身に付けるためには、生徒との間に人間関係が成り立っていなければなりません。そのため、教師には、生徒と人間関係を構築するためのコミュニケーション能力が不可欠となるのです。皆さんの世代は、先輩教師との間に世代的隔たりがある中で教壇に立つことになりますが、教育は一人の教師の力だけでできるものではありません。教科担当間、学年間のチームワークが大切です。つまり、教師間の人間関係の構築という意味においても、コミュニケーション能力が重要になるのです。さらに、生徒の学習経験や興味・関心に応じて「教材を使いこなすことができる力」や、生徒の励みや自信につながるように「生徒の能力を適正に評価する力」も重要です。

先輩教師の授業を参観しましょう。また、先輩教師に自分の授業を見てもらいましょう。英語教師としての自己研鑽の姿勢を大切に、常に授業改善を心がけましょう。そうしながらも、自分自身のカラーを大事にして、自分ならではの教え方、自分にしかできない生徒とのかかわりかたを確立しましょう。

「教師」という仕事は大変です。その上、学校教育における英語教師の役割に大きな期待がかかる時代を迎えています。それは英語を教える我々にとってプレッシャーです。しかし、それだけに「やりがい」があります。きっと多くの「宝者」と出会えることでしょう。さあ、皆さんは英語を通じて、どのように生徒にかかわり、何を生徒に教えるのでしょうか…。期待しています。

Remember, When you wake up tomorrow, it's the first day of the rest of your life！

英語教師を目指す、愛する母校・専大の皆さん、頑張ってください！専修大学いつまでも！

教員採用試験体験記（社会）

山梨県笛吹市立春日居中学校教諭　塚越 武史（平成18年法学部法律学科卒業）

【はじめに】

私が、「学校の先生になりたい」と思ったのは中学校の時の恩師との出会いでした。皆さんが教職課程を学んでいるのも様々な理由があると思います。その想いを大切にしてこれからの大学生活を送って欲しいと思います。現在、私は中学校の教員をしていますが、そこに至るまでの話をします。私の体験が教員を目指す皆さんの何かのお役に立つことがあれば幸いと思います。

まずは、簡単に自身の紹介をさせていただきます。私は、山梨県の出身で地元の高校を卒業後、専修大学に入りました。入学時から教職は進路選択の一つとして考えておりましたので、教職課程も同時に履修しました。3年生からのゼミでは、法学部の専門ゼミと、嶺井正也先生の教養ゼミ、蔭山雅博先生の教養ゼミ（履修の関係で未登録）に参加していました。教職課程の先生方のゼミにも参加していたことで多くの情報と、丁寧な指導を受けることができました。3年の後半から4年にかけては教員採用試験の対策とともに、地元の教育学部のある大学院進学の為の勉強をしていました。4年生の時に、地元の教員採用試験を受験しましたが、落ちました。しかし、大学院の方には合格しましたので、卒業後は地元の大学院に入学しました。大学院では、授業の合間に試験対策の勉強などをして2回目の採用試験に臨みました。その年の採用試験に合格し、今年の春から地元の中学校で教員として教壇に立っております。

【教員採用試験について】

現在、団塊の世代の定年とも重なり、官庁・企業を問わず比較的就職しやすい傾向にあり、教職も数年前に比べると非常に就きやすいと思われます。だからこそ、皆さんには頑張って欲しいと思います。特に、東京・神奈川などの大都市では2～3倍という低倍率で試験が行われています。また、地方でも大都市ほどではないにしろ募集枠の拡大を行っているところも多いようです。

まず皆さんに考えていただきたいことは、「どこの教師になりたいか」ということです。これには2つの意味がありまして、「どの校種にするのか」という意味と「どこの都道府県・市、区で教師になりたいのか」という意味です。校種については、小学校の方が枠がありますし、逆に高校では少ない傾向にあります。地域につきましては、地方出身者であるならば地方に帰るのか、都市部に残るのかという選択があります。さらに都市部においては、都や県で受験するのか、政令指定都市や特別区（23区）にするのかという選択もあります。これらの選択は早いほうがいいと思います。なぜなら、それぞれに準備することが若干違いますし、その準備にも時間がかかるからです。

次に、対策の方法です。先ほど述べたことにも関わりますが、行きたい校種・地域が決まりましたらその過去問を見てみましょう。現在では各官庁や公立図書館で閲覧することが可能ですし、書店にも並んでおります。そこから問題の傾向を読み取り、必要な対策を行うことが合格の近道です。ただ、どの試験にも専門と教養があり、専門はその通り校種（私ならば、中学校社会科）に沿った問題で、教養は一般常識や時事、教職全般に関わる問題です。専門につきましては、皆さん問題ないと思いますが、教養及び学習指導要領につきましては苦手であろうと思います。私は対策の時には教養に多くの時間をつぎ込みました。また、方法としては書店で販売している対策ワークの比較的薄くて全部載っているものを購入し、とにかくやりきりました。厚いものは終わらない事が多いですし、他の勉強に時間を割きにくいという欠点があるからです。そして、面接や作文については誰かの支援が必要です。大学の先生でもいいですし、恩師や先輩に頼むのもいいと思います。これらのことができるなら問題ないと思います。当然、日頃からコツコツと行うことが大切であり、一夜漬けで合格できるほど教員採用試験は甘くありません。

最後に選択肢についてお話をしたいと思います。当然、4年生の時に合格してしまうのがもっとも良いのですが、私のように合格せずに卒業される方もいると思います。そこで教師への道を捨ててしまうのはもったいないと思いますし、自己実現のために頑張って欲しいと思います。そこでいくつかの選択肢を考えてみました。

①期間採用、非常勤採用、自治体採用（市担など）で経験を積む
②私立の採用試験を受ける
③大学院に入り専門的な知識を身につけ、修士の学位と専修免許状を取る
④通信教育等で小学校の免許状を取って小学校の教員を目指す
⑤予備校・自宅等で次の年の試験に備える

①は、比較的多くの方が行っている選択肢です。実際に現場に赴き経験を積む方法です。
現在では経験者を試験の際に優遇する自治体もあります。②は、公立ではなく私立の学校で教員になる方法です。③は、私も取っていた選択肢ですが行きたい自治体にある大学の大学院に入り、専門的な経験を積みながら修士の学位と専修免許状を取って教員を目指す方法です。④は、小学校の教師を目指している方がとる方法です。⑤は、予備校に入りながら目指します。

以上が簡単ではありますが、私の知っている知識です。皆さんも未来の教師を目指して頑張って欲しいと思います。

授業参観

教員採用試験体験記（商業）

商学部会計学科４年　進士　勇介

１．はじめに（教師を目指したきっかけ）

私は高校生のときに３人の先生と出会いました。部活動の指導をしてくださった先生、検定の指導をしてくださった先生、小論文の指導をしてくださった先生、の３人です。誰一人として欠けてはならない恩師の先生です。

私は元々、商業高校へ進学し就職する予定でした。しかしながら、３人の先生と高校で出会い教師を目指そうと思い、今に至ります。

２．採用試験の勉強、母校（高校）での部活動指導

教員採用試験の勉強を始めたのは大学１年生の９月ごろです。教員養成セミナーを毎月購入し、その雑誌にある「教職教養」「一般教養」の問題を解き、専門教養（商業）に関しては高校の教科書を用い、もう一度復習の意味もこめて勉強しました。新指導要領によって新設・変更された科目については教科書を購入し勉強を行いました。特に、専門教養は将来のきたる教育実習の教壇実習や教員採用試験における模擬授業に備えて、どのように自分だったら説明していくのかをイメージしながら勉強をしました。

私は商業高校出身のため、一般教養に苦戦を強いられました。そこで、最初は答えを見ながら解き答えを導く流れをまず勉強し、同じ問題を繰り返し行いました。しかしながら、いまだもって一般教養は苦手です。

新聞の記事は経済や教育などといった項目別に分類し、大学ノートに張りました。これは、第一に後で見たときにすぐわかるようにすることと、第二に教科商業は現実の経済社会の動きなしには説明することが出来ないと感じていたためです。そのため、教育以外の記事も幅広く集めました。

大学２年生の４月より、母校（高校）での部活動外部指導員をさせてもらうことになりました。部活動指導では特に伝えることが大変に困難で、話すことが上手ではない私にとってはとても大変なことでした。どのようにすれば伝わるのかを考えつつ話すものの、言葉のニュアンスによってはこちらの意図するものとはまったく別に受け止められてしまうこともあり、常に「伝える事」には気を付けなければならないと心に留めています。

３．最後に

高校部活での生徒との関わりやふれあいがなければ私はきっと教師の道をあきらめていたと思います。高校部活で生徒とふれあうことによって「教師になりたい」という気持ちが強くなり、あきらめずにここまでくることが出来たのではないかと思います。教え学び合うという環境が教師の魅力なのではないかと強く感じています。

教育実習での出来事も「教師になりたい」という気持ちを強くしてくれました。特に、教育実習最終日に頂いた色紙、教育実習で用いたプリントなどは教員採用試験の際に常にかばんの中に入れていました。

教員採用試験には落ちてしまいましたが、教師になることが、お世話になった先生方への一番の恩返しだと勝手に思い、これからも頑張っていきたいと思います。

後列中央が筆者

教員採用試験体験記（小学校）

東京都葛飾区立東水元小学校教諭　長田　進（平成17年法学部法律学科卒業）

1　教師という職業との出会い

大学４年生になり自分の将来を意識し始めたとき、私は小学校教師をしていた姉から、こんな言葉をかけてもらいました。

「教師は子どもたちに夢の種をまく仕事。子どもたちの無限の可能性を一緒に見つけていかれる魅力がある。」

この言葉に影響を受けた私は、文京区の小学校で、学習ボランティアをするようになりました。そして自分自身でも、子どもたちの笑顔という教師の魅力を見つけることが出来ました。その後、特別支援学校の講師をやりながら、玉川大学の通信教育課程において小学校の免許状を取得し、現在葛飾区の小学校で４年２組の担任として、充実した教員生活を送っています。

今回は採用試験の心構えや採用までの経緯を紹介したいと思います。少しでも参考にしていただければ、幸いです。

2　採用試験の心構え

よくこんな質問をされます。「小論文の書き方を教えてください。」「採用試験時の面接のテクニックは…。」このように聞かれた時に私は、まず「子どもたちに対するあなたの思いを教えてください」と応えます。つまり、採用試験には書き方やテクニックよりも、子どもたちに対する自分の思いをどれだけ伝えるかが大切です。そして、子どもたちに対する思いが決まったら、次にその思いを基に具体的な行動、実践をしていきます。「熱い思いはあるけど、何も経験していません」では、全く説得力がありません。自分の思いが決まったら、何か行動に移してみる。これが、合格への近道だと考えます。

子どもたちに算数を教えている様子。

3　採用されるまでの経緯（１次試験）

では実際に採用されるまでの経緯について、平成19年度の東京都教員採用試験小学校を参考にしながら説明していきます。

①一般教養25問（教職教養と合わせて90分・５つの選択肢）

全体的に基本問題が多く、東京都の時事問題もあります。この問題は、東京都の教育の動きを調べていると解けるので、試験前にはしっかりチェックすることが必要になります。

②教職教養25問

教職教養は、教育法規が約３割近くを占めています。対策としては、順番通りに行わず、好きなところから解いていき、自分に良いリズムを作りだす工夫が必要です。また東京都の時事問題が６問入っていました。この６問は必ず得点源になるので、しっかりとした対策をするべきです。インターネットで調べ、東京都が出している広報などにも目を通すことや、教員養成セミナーを図書館や就職課に行き、コピーをして情報を集めることが必要です。

４年２組の学級目標。私の好きな「チームワーク」をそれぞれの頭文字に使っている。

③専門教養３１問（６０分・４つの選択肢）

全科にわたり幅広く出題されました。過去問題集を繰り返し行い、問題の傾向、解答の導き方、解答していくことが必要です。

④小論文

小論文は、自分の子どもたちに対する思いと具体的に経験してきたことを、まず書いてみることが大切です。そして書き終わったら、大学の先生や友人に読んでもらい、伝わりにくい表現や言葉を訂正していくことが必要です。私は専修大学にあります「教職・教育学研究会（たまごの会）」という教師の勉強会に参加し、先輩の先生方から温かい指導を受けて練習してきました。ぜひ、たまごの会のような勉強会に参加し、仲間とともに合格を勝ち取ってください。

4　最後に

採用試験は、子どもに対する思い、自分の経験を発表する場です。みなさんは一人ひとり、すばらしい経験をされています。また、熱い思いも持っています。その一つひとつを採用試験という場で、一本の芯にすることが必要です。採用試験で考え、悩んだことは必ず教師人生において、あなたを助けてくれることでしょう。応援しています。

教育実習を終えて（国語）

茨城県城里町立桂中学校　文学部日本語日本文学科日本文学文化専攻４年　和田　哲也

１．実習スタート

６月15日から三週間、教育実習をさせていただきました。母校の中に入るのは卒業して以来約七年ぶりです。懐かしい三年間の記憶の中に、教育実習生は憧れの存在として残っています。授業や部活に奔走し、時に先輩のように接してくれる姿はとても輝いていました。しかし、いざ自分が行くということになると、生徒や先生方と良い関係が築けるのか、授業はうまくできるのかといった不安ばかりが募ってしまいます。

すっかり緊張していた私を救ってくれたのは、生徒たちの「おはようございます」という声でした。挨拶を習慣化させようという学校側の指導があったとはいえ、自己紹介もまだしていない人間に対してこんなにもためらい無くできるものなのかと、ただ驚いてしまいました。そのお陰で、これは負けていられないと気合を入れ直して実習に臨むことができたのです。

２．生徒とのふれあい

私が受け持ったのは１年１組のクラスでした。朝の様子に反して自ら質問してくれる生徒は少なく、若干落ち込んでしまいました。ですが、相対してみると大人しいというより話すのを遠慮しているように感じたので、こちらから積極的に話しかけるようにしました。事前に覚えていた名前と顔を一致させながら、その生徒がどんな性格なのかを確かめるよう意識してコミュニケーションをとっていきました。生徒同士の会話にちょっと耳を傾けることも、その助けになったと思います。

より生徒の様子を見ることができたのが部活動です。何かに打ち込んでいる時の顔はとても生き生きとしています。見学したり一緒に参加したりすると、普段は控えめな生徒が熱心に活動の説明をしてくれるなど、意外な一面を見ることもできました。生徒と交流を深めることは、教室の良い雰囲気作りや授業を滑らかに進行させるためにも大切なことでした。また、様々な学年の生徒とふれあえる数少ない機会なので、なるべく部活動には参加したはうが良いと思います。

３．教壇実習の準備と実施

実習二週目から、１年生の２クラスで教壇実習をさせていただきました。事前に教材研究をする時間はたっぷりあったので、それを基にして先生方の授業を参考にしながら指導案を完成させていきました。指導案を作っていく上で意識したのは、とにかく「細かく、幅広く」教材を読み解くことです。生徒の質問に全て答えられるよう、あやふやな語句はすべて辞書で調べました。また、生徒が実感しやすい身近な例や、新しい知識を適度に導入することで集中力が続くように工夫しました。そうすることで見えた授業の課題をもきちんと示し、生徒の興味を引きつつ何を学べたのかが分かるようにすることも忘れてはいけません。

これで準備は完璧だと思っていても、実際に授業をしてみるとねらいが外れたり時間が足りなくなったりという事は起こってしまうと思います。そこで慌てるのでなく、出来るところをきちんとやるというように気持ちを切り替えることが重要であると実感しました。

４．周りに支えられた教育実習

落ち着いて教壇実習ができたのは、指導教員の先生と生徒たちの助けがあったからです。教壇実習後の指導はとても丁寧できめ細かく、足りなくなった授業時間を他の先生方に掛け合って調整してくれる姿もとても頼もしいものでした。私の授業に慣れてきた生徒は積極的に発言してくれるようになり、中にはお褒めの言葉をかけてくれる生徒も。そういった恵まれた環境でやれたため、ガチガチになるはずの研究授業も満足いく内容にすることが出来たのだと思います。

最後はクラスで花束を用意してくれ、幸せな気持ちで実習を終えられました。教育現場にいられる幸せと共に、先生方の大変さを感じた三週間でもありました。先生方の仕事量は教育実習生の比ではありません。実習の経験を生かしながら、忙しさを充実感に変えられるように自分を磨いていきたいと思います。

教育実習を終えて（英語）

埼玉県立豊岡高等学校　文学部英語英米文学科４年　中村　俊彦

試合終了。高校３年の夏、最後の野球の夏の大会で高校生活を終えた私は、「次は教育実習生として絶対この高校に戻ってこよう」そう決意して慣れ親しんだ母校のグラウンドを後にしました。

そして時は流れて４年後ー私が受け持ったのは１年生。まだ入学して間もないやっと高校生活に慣れてきたという感じのクラスの雰囲気でした。実習初日のクラスでの挨拶、教育実習生として注目される存在だと思っていた自分にとってクラスの生徒の反応は予想外のものでした。40人の生徒達、つまり80個の目が自分に向けられるものだと思って緊張していたのですが生徒は平然としていました。まるでいつもの朝のHRのように。そこで私は「教育実習生も特別扱いなしで一人の先生として生徒達は接するのだ。」と気付きました。教師という自覚を持って生徒達と接していこう、そう思えることができました。

教師としての経験、技術がない私は元気・勢い・若さを持って生徒達と接していこう、そう思って臨んだ実習２日目、初めて朝のHRを受け持ちました。クラスのみんなと正面から向き合う初めての機会、緊張しながらも元気にHRを行いました。HRが終わると担当の先生から話がありました。「元気はあるのだけど、生徒の顔が見えていない。生徒との呼吸ができてない。それじゃせっかくの元気が生きない、生徒にその元気が伝わらないよ。」と。生徒との呼吸ーその言葉は今回の私の教育実習でキーワードとなっていきました。

３日目から授業を任された最初の１週間。生徒との呼吸という言葉を常に意識しながら授業、HRを行っていきました。どれだけ意識してもその言葉に苦しむことになるだけでした。授業を行っていてもこっちと生徒で何かズレを感じる、そのズレは明らかに感じることができるのにどうしてもそれが修正できませんでした。今思うと、授業の中だけで生徒と呼吸を合わそうとしていたのが無理あるのかもしれません。小手先だけで何とかしようとしていたのです。

そんな激動の１週間が終わり、２週目には我が校の伝統行事であるHR発表会が行われました。HR発表会とは各HRがそれぞれ演劇を一つずつ作り上げ全校の前で発表するというこの時期の恒例行事となっていました。生徒達自身で一つの劇を作り上げるということで最初はクラスに口を出すのはどうかと思い、遠慮していました。しかし元気にそして一つのものを作り上げようとするクラスのみんなを見ていると自分の中の豊高魂に火がついておとなしくしていられず自然とクラスのみんなの輪の中に入っていくようになりました。クラスのみんなも「先生も一緒でこれでやっとクラス一丸でいけるね！」と言ってくれました。大道具や小道具の手伝い、芝居の手伝いもしました。そしてクラスは本番で新人賞を獲得。表彰でクラスのみんなが「先生も一緒に行こう」と表彰台に上ってバカ騒ぎした時にやっとこのクラスの一員になれたと実感することができました。

授業にもやっと慣れてきた３週間目。最後の１週間となりました。すると不思議なことにあれ程苦しんでいた生徒達との感覚のズレがなくなっていたのです。誰が授業を動かしているわけでもない、しかし授業がクラス一体となって進んでいくのです。ああ、これが先生のおっしゃっていた生徒との呼吸なんだな、そう実感した私は少し先生のおっしゃった意味がわかったような気がしました。決して一方通行にはならない生徒が発信することをアンテナ張ってしっかり受信してまた生徒に発信する、授業が一つの生き物のように動いていく、そのことを体感できたことが私にとって本当に大きな経験となりました。研究授業が終わり担当の先生から「クラスのみんなの顔がしっかり見られてたね。いい顔していたよ。」と言っていただいた時は涙が出るほどうれしい気持ちでいっぱいでした。小手先だけで授業するのではなく、心と心で授業する、言い換えれば呼吸をする、これから社会に出て行く自分にとって非常に大切なことを教わった気がします。

教育実習に行って感じたことがあります。大好きな母校にもう１度帰ってこられてよかった、そしてクラスのみんなに出会えてよかったと。激動のように過ぎていく忙しい日々の中で楽しみにしていた部活には顔だせなかったけれど、今まで生きてきた22年間で一番緊張した３週間、一番充実した３週間となりました。これから実習に行く皆さん、不安もすごく大きいと思います。でも不安の数だけ喜びや感動、そして何よりも行かなきゃわからない言葉では表現できない財産となりうるものがたくさん待っています。ぜひ沢山のことを吸収してきてください！

教育実習を終えて（地理歴史）

大分県立大分南高等学校　文学部人文学科歴史学専攻４年　西村　圭介

私は、母校である大分県立大分南高等学校で二週間の教育実習をさせていただきました。担当は日本史、受け持ったクラスは二年生で、とても明るくて元気がよく、緊張気味の私を暖かく迎え入れてくれました。

短い実習期間の中で、まず始めに取り組んだことは、クラスの生徒の名前を覚えることでした。初日からクラスの名簿と座席表を持って授業を参観し、顔と名前を一致させる必死でした。その甲斐もあってか、生徒と話をするときに一言名前を呼ぶと、お互いの距離も縮まり、より円滑にコミュニケーションを取ることができました。また、生徒たちと積極的に話をすることで、生徒の立場からみたクラスの姿を知り、早い段階でクラスのキャラクターを掴むことができました。しかしその一方で、生徒と仲良くなるということに重きを置きすぎたせいか、「生徒」と「教師」の距離感が曖昧になることもありました。例えば、注意するべきところをなかなか注意できなかったり、自分の立場がどうあるべきかを見失ってしまうようなこともあったりするなど、自分の教師としての意識の低さを痛感するような場面もありました。

教壇実習では、範囲が奈良・平安時代といった自分の専門分野だったので、なんとかなるだろうと高を括っていました。しかし、最初の授業でその考えは安易だったと思い知らされました。教材研究を十分にしたつもりでも、いざというときには言葉が出てこない。わかりやすく作り上げたつもりだった板書計画も思い通りに書けない。答えやすい発問をしたつもりでも、生徒の答えをうまく引き出せないなど、すべて、自分の「つもり」という尺度から考えてしまい、生徒が見ている立場で授業を展開することができませんでした。もちろん、指導をしていただいた先生からはきついお言葉をいただき、とにかく反省するしかないという散々なものでした。

その失敗を受けて、二回目以降は心を入れ替え、教材研究にはたくさんの時間をつぎ込み、板書の練習も重ね、一つの授業を終えても次の授業はより良いものにしようと心がけ、より高いレベルを目指せるように努力しました。その上で、いかに生徒たちを授業に引き込むか、他の教育実習生や多くの先生方と相談し、少しでも「おもしろい」授業を作り上げよう苦心しました。その結果、研究授業の後には、もっといい授業ができるという自信が湧いてきました。

課外活動では、私が所属していた吹奏楽部での指導、また実習期間中に行われた高校県体の開会式ではクラスの引率など、それまでは知らなかった生徒たちの姿も知ることができました。これは、授業や学校の中だけでは経験できなかったことだと思います。

実習最終日には、HRの後に生徒から労いの言葉と手紙を貰いました。その手紙の中で、ある生徒が「先生を見て、私は自分の夢を実現させようと思いました」と、書いてくれました。この言葉を見た瞬間、私は胸が熱くなりました。数週間というほんの僅かな時間を共有しただけで、一つでも生徒たちになにかを残せたのなら、この教育実習には大きな意味があったのだと実感しました。この言葉は、私の何物にも代えがたい大切なものです。

こうして考えてみると、生徒は教師をよく観察しているものだと思います。よって、教師が生徒にエネルギーを持ってぶつかれば、生徒たちもエネルギーを持ってぶつかってきます。だからこそ、実習生といえども一人の教師であると自覚し、責任を持って生徒と接する必要があります。そこで成功と失敗を繰り返して、学んだことは、いつか必ず自分にとって大きなものとなるでしょう。この先教育実習にいく方たちも、本気で向き合って、本気で悩んでください。その姿を生徒は必ず見てくれます。

教育実習を終えて（商業）

千葉県習志野市立習志野高等学校　商学部商業学科４年　青崎　健

私は、母校である習志野市立習志野高等学校にて、２週間という短い期間の中で、現場の教育というものを学びました。私が担当させて頂いた教科は１年生の商業の簿記です。高校時代は普通科だったので、簿記の授業を受けたことがありませんでした。ですから、高校で行なわれている簿記の授業の雰囲気を知らず、実習前はすごく不安でした。私は、この不安を無くすために事前の準備をしっかり行いました。

現場で行う教育は私が想像していた以上に大変であり、特に授業を行なうことが難しいと感じました。それは、授業を行なっていても生徒からの反応がなかったり、寝ている生徒がいたりしてつまらないような雰囲気があったからです。この雰囲気を改善するためにどうすれば良いか、深く考え、行動しました。それは、生徒との信頼関係を築けるように行動したことです。私は、信頼関係を築くために、生徒の名前を覚えたり、昼休みに教室で生徒と話をしながら食事をしたり、部活動に参加し、コミュニケーションを取ったりしました。そうすることで、生徒との会話も弾むようになり、距離のあった関係も改善されていきました。また、信頼関係を築くことで、授業の雰囲気も良くなり、生徒の学習意欲も高められました。私はコミュニケーションを取ることが授業を行なう上で基礎になっていると感じました。

実習当初はとても緊張して自分自身のことで精一杯でありましたが、授業を重ねるにつれて、生徒との言葉のキャッチボールも出来るようになりました。生徒は言葉よりも態度で表現することが多かったです。私はそのメッセージを感じ取り、分かりやすい質問をしたりして授業を改善していきました。そうすることで、生徒も楽しんで授業に参加するようになり、達成感も味わえるようになりました。これは生徒から多くのことを教わり、常に自分自身を成長させることができたからだと思います。私は教育実習で教えることよりも教わることや感じることの方が多かったと思います。毎日徹夜で勉強を重ね、生徒のために努力したことが、本当に自分自身のためになっていると、実習後に実感しました。

実習期間中は睡眠時間も短くなってしまい、とても忙しくて大変です。しかし、この困難な状況を乗り越えることで大きな感動も味わえます。私の場合は実習の最終日にその感動を味わいました。それは、生徒から花束やメッセージ付色紙などをもらい、「ありがとうございました」や「楽しかったです」と言葉を掛けてくれたことです。この瞬間、教師の良さを実感しました。私は将来教師となり、この感動をもう１度味わいたいと思いました。このような貴重な経験は、これからの人生に大きく役立っていくでしょう。皆さんにも私のような体験を味わって頂きたいと思っています。

そして、決して忘れてはならないことがあります。それは、先生方のご支援やアドバイス、他の実習生からの助けなど、多くの方からのサポートがあってこそ、教育実習を成功させることができたということです。私はたくさんの方の支えがあったので最後まで全力で取り組め、困難を乗り越えられたと感じています。私は心から感謝の気持ちで一杯です。これから教育実習を行う皆さんも、たくさんの方のサポートによって行なえるということを感じて、実習を行なってきてほしいです。そうすれば、どんなにつらい状況にも負けずに乗り越えられると思います。

最後に一言。教育実習という貴重な体験は自分自身を大きく成長させられるチャンスです。この転機を大切に、そして、全力で取り組んでください。自分が努力した分、感動も大きく味わえ、価値観や考え方もさらに磨くことができます。教育実習を通じて、多くのことを感じ、学んでください。

教育実習を終えて（情報）

三重県立神戸高等学校　ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科４年　横山　敏之

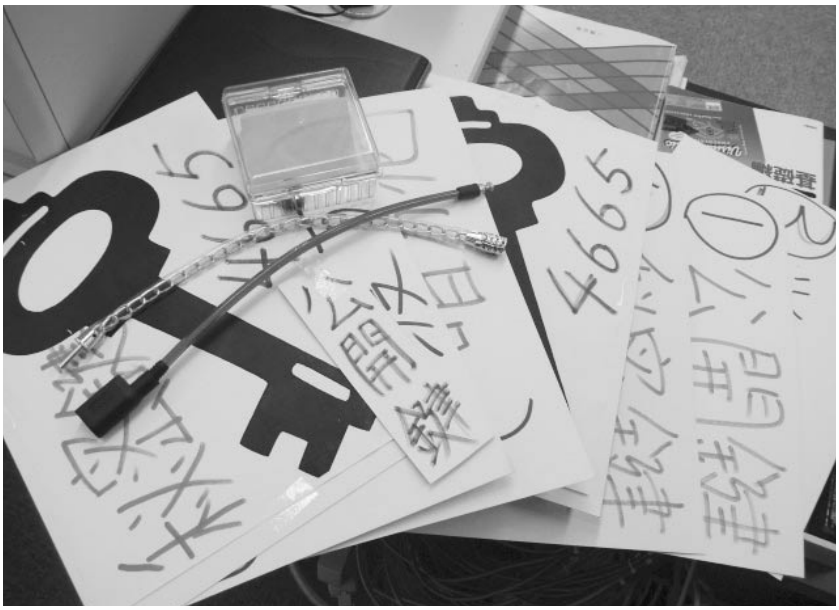
私は2007年５月７日から５月25日までの土日を除く15日間、自分の母校である三重県立神戸高等学校にて教科「情報」の教育実習を行ってきました。何より教科「情報」は私が高校生のときには必修化されていなかったため、私は「情報」の授業を受けたこともなければ、見たこともなかったことが一番の不安でした。しかし実習が始まると終わるまでの約３週間はあっという間で、学ぶことも多くとても良い経験ができました。

やはり「教育実習」という言葉を聞くと、実際に授業をするということが目標のように思えます。確かに授業をすることは大変です。５分単位で授業を組み立て、授業のためのパワーポイントやその他の小道具を準備しなければいけませんし、さらに「情報」という教科ではコンピュータに触れる授業をすることになり、準備することに関しては他の教科に比べ大変かもしれません。特に私の母校では「情報」は２限続きで、１時限はパワーポイントを使った授業、２限目はコンピュータに触れる授業の約90分の授業でしたので指導案を考えることに時間がかかりました。ただ、その準備をしっかりとしておけば授業は思ったよりスムーズに進みます。大切なのは生徒の反応をどう受け止めるかです。生徒の反応を見て、話す口調の速さや、パワーポイント等の資料の修正、話す内容の変更などをしていかなければなりません。私は３年生の９クラスを担当していましたので、授業の内容を改善していくことで、同じ内容の授業をしても１クラス目と９クラス目では間違いなく９クラス目の授業の方がうまくできました。しかし教師は何回も同じ授業ができますが、生徒は同じ授業は二度と受けることはできないのです。そのことを考えると、授業を一回で成功させるにはどうしたらよいのか、ということをとことん考えることが必要です。

先ほど、準備さえしっかりすれば授業はスムーズに進む、と言いましたが当然つまずくこともあります。それはクラスによって全く生徒の反応が違うからです。ウケを狙った話でも爆笑をとれるクラスもあれば、全く笑わないクラスもあり、コンピュータの操作が全体的にスムーズなクラスもあれば、そうでもないクラスもあり、同じ高校の同じ高校生でもクラスによってこうまで違うのかと驚いたほどです。そしてやはり教師も人間ですので、生徒の反応がよければ授業にリズムがでますが、反応が悪ければ授業のリズムに狂いが生じてきます。私は教育実習を指導してくださった先生に、「横山先生はうまくいっているときはすごく授業がうまいけど、少し崩れると授業が崩れていることがはっきりとわかるので気をつけてください。」と言われていました。このような体験を通して私は、授業を100％成功させるのは不可能に近いが、どこまで崩さずに授業ができるかがポイントなのだと思いました。

授業以外では、私はなるべく生徒と話そうと思い、授業の準備を後回しにし、放課後は学校を歩き回りました。もし本当の教師になれば学校の職員としての仕事があるため、学校を歩き回る暇はありませんが、教育実習生はそれなりに時間があるので生徒と接することで色々なことを感じることができます。やはり生徒の言葉はとてもまっすぐで素直であるため、「先生は他の教育実習生より授業がうまい」など言われるととてもうれしいものです。ただ「生徒からの一言の影響が大きければ、教師の一言が生徒に与える影響も大きい」のです。だからこそこれから教育実習に行く方には、教育実習生といえども、教師としての責任を持って言葉を発してほしいと思います。

まだまだ伝えたいことはありますが、この私の体験談が少しでも皆さんの参考になれば光栄です。そして皆さんの教育実習の成功と充実を心から応援しています。がんばってください。



教育実習を終えて（数学）

群馬県伊勢崎市立宮郷中学校　ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科４年　高橋　みゆき

生徒を授業に引きつけ、発言をさせ、やり取りをしながら、生徒に思考を促し、生徒と一緒に考えていくために、教師の果たすべき役割は大きい。話題の振り出し方、発問の仕方、板書の仕方、指名の仕方まで、全てが授業の行方を左右する大きな要因となる。授業はあくまで生徒主体であって、教師はその支援者でしかないが、その役割は大変重要なものである。生徒がつぶやいた独り言も、教師が拾えば授業のメインテーマとなり、下を向いて黙り込んでいた生徒も授業のキーパーソンとして活躍できる。日常生活とは少し遠い数学の世界の話も、新聞から引っ張り出してきた話題から切り出して関連付ければ、生徒たちの関心も一段と深まる。発言のタイミングや事象に対する目の付け所、生徒の状況を敏感にキャッチする感覚は、正に教師の持つテクニックであると私は思う。指導教官とのやり取り、参観実習を経て、教師の放つ言動は一つひとつ大きな意図を持ったものであることを実感した。

そうとはわかっていても、教壇実習ではなかなかそれを実践できず、どこを改善したらよいのか、授業をするたびに考えさせられた。そして、様々な点に目を向け、それに対する配慮ができる余裕をつくるために、まずは教材研究に力を入れなければいけないことを知った。数学という教科の特性上、授業の展開は何通りも予測しなければならないし、その状況に応じて対応をとらなければならない。生徒の発想、発言を尊重して、生徒主体の授業を展開させ、尚且つ重要なポイントをおさえるためには、教師の中に授業の核となる明確な目標がなければならない。余裕がなくなったり、応用の利かない独りよがりなシナリオしか手元になければ、数学の得意な生徒ばかりを指名してしまったり、自分で答えを導いてしまうような発言をしたくなってしまう。

それから、授業のねらい自体の搾り出し方も本当に難しい。資料を見れば、単元のねらいは単純に見えてくるものだとばかり思っていた私は、指導書にも教科書にも指導要領にもどこにも書かれていない設問のねらいを見抜くことができなかった。私も、教育実習に行くまで知らなかったことだが、各教員の単元における重要項目というのには個人差がある。単元において、焦点の当て方が皆違うのだ。授業での扱い方も変わってくる。授業展開がこんなにも、教師個々人の手に委ねられていることをはじめて知った。

前列中央が筆者

授業を行う上で、最も重要なことは、自らの起こす言動が何を意図しているものなのかを明確にすることだ。それは、授業のやり易さや理想的な形式のためでなく、できるだけ円滑な生徒の理解と発見を促すためでなければならない。教材の工夫や板書の工夫も自らの自己満足であってはならないのである。

私自身が「生徒」だったころは、感じることのなかった教師という職業の難しさに、教育実習に行って初めて気付かされた。同じ校舎で、何度も受けていたはずの数学の授業が、とても新鮮で貴重なものに感じられた。大学に入学してから、教職課程を履修し始め、教職に関する様々な授業を受けて、教師という職業や学校教育について考えてきた。そして、教育実習に行って改めて、自分自身の教育現場に対する視点が変わったことに気付いたのである。

教育実習の目的は、テクニックを習得することではない。プロの教員がこなすことを、学生が同じようにできるはずもないのである。ただ、今回の実習を通じて、私は真の意味で教員という職業の難しさと、そのすばらしさを実感することができた。

丁寧に且つ真剣にご指導してくださった指導教諭の方々はもちろんのこと、素敵な時間を共有し、私の拙い授業にも懸命に参加してくれたすべての生徒たちに、心からお礼を言いたいと思う。

介護等の体験を終えて

法学部法律学科３年　我謝　孟春

私の介護等体験はすばらしいものでした。養護学校で２日間、ディサービスセンターで５日間行ないました。

養護学校は初めて行くということもあって、生徒と上手く会話できるかどうか不安でした。行ってみると、話しをしていてもあまり理解できていない児童・生徒もいましたが、障害をもっている児童・生徒なのかと思いたくなるくらいしっかりしている生徒もいて会話は上手くいきました。授業では生徒と一緒に陶器をつくりました。生徒は陶器の作り方を分かっていたようで、初めて作る私に教えてくれるほどの腕前でした。放課後は、一緒にバレーボールをしました。最初のイメージは、彼らは複雑で激しい運動やスポーツは出来ないのではないかというものでしたが、私より上手な生徒がたくさんいて驚きました。この２日間の体験で生徒をとてもかわいく感じ、機会があればまた会いたいなと思うようになりました。

ディサービスセンターではさまざまな経験ができました。行く前のイメージは重くて暗いというものでしたが、実際に行ってみると施設の方や利用者の方は挨拶にとても元気があり、明るいといった印象を受けました。私がこのデイサービスで一番大変だったことは、利用者の方といかにコミニュケーションをはかるかということでした。利用者の方々の中には自分から話かけてくる方、話かけてもあまり反応がない方それぞれです。相手によって話し方や話題を変えたり、１対１で話すのではなくなるべく全体で会話をすようにして利用者を楽しませることを心がけました。しかし、話す話題が無くなり、沈黙が長く続いたこと、あるいは、１人の方と話が盛り上がり全体に目を配ることがおろそかになってしまったこともしばしばありました。コミニュケーションをはかることは難しいことだと改めて考えさられました。またこの体験では、毎日自己紹介を10分～15分くらいおこないました。利用者の方に大きな声で分かりやすく、興味を持たせるように話をしたり、自分ばかり話すのではなく利用者に問いかけて反応をうかがったりしながら自己紹介をしました。当初は緊張して上手く話すことができなかったのですが、最終日になると落ち着いて、考えていた事以上の話をすることができました。さらに、利用者の方とレクリエーションを行いました。最終日には私たち自らがレクリエーションを考えこれを行いました。レクリエーションをするにあたっては、楽しく、且つ安全に行うことができるように気を使いました。レクリエーションでは、私が背中にカゴを背負い、利用者がそれにピンポン玉、風船などさまざまな大きさのボールを入れるというシンプルなゲームを行いましたが、私も含め利用者の方々は楽しそうにゲームに参加していました。しかもケガをする人もなく安全に行うことができました。ディサービスセンターでは入浴介助の見学や送迎車に乗り利用者を見送りました。５日間という短い期間でしたが、１日ごとに新たな発見をすることができてとても有益且つ充実した日々を送ることができたと思います。

今度の介護等体験によって普段の生活では行くことのできない、養護学校、ディサービスセンターにおいて自分の知らない世界を見ることができたことはとてもよかったと思います。さらにこの体験で一番感じた事は何事においてもコミニュケーションをはかることが大切だということでした。この貴重な経験を今後の生活に活かしていきたいと思います。

司書・司書教諭課程

イギリスの図書館と日本の図書館

文学部　兼任講師　須賀　千絵

１．イギリスの図書館を紹介する理由

公共図書館について、「週末に親子連れが行って、絵本や小説を無料で借りてくるところ」といった固定イメージを持つ人は多い。受講生も、さまざまなサービスについて授業で学んでいるものの、このような現状の図書館イメージからなかなか離れられないようだ。そこで「図書館経営論」の授業では、日本とは様子が異なる海外の図書館の事例を紹介し、図書館サービスや運営方法の可能性について考えてもらうきっかけにしたいと思っている。なかでも私自身が研究テーマとしていることから、イギリス（イングランド）の図書館について取り上げることが多い。以下に、いくつか、日本との違いを紹介しよう。

２．日本とイギリスの違い

２．１　日曜は閉館

イギリスの公共図書館は、通常、日曜は閉館である。そもそも10年くらい前までは、キリスト教で安息日とされている日曜には、一般の商店も閉まっているのが普通で、開いているのは、非キリスト教徒が経営している店だけだった。その後、次第に日曜に開店する商店が増え、また行政改革の影響で、一部の「先進的な」図書館が日曜に開館するようになってきている。

日曜開館を実施している自治体でも、ごく一部の図書館だけが開館し、開館時間も限られていることが多い。例えば、ロンドン北部バーネット区は、12館ある図書館のうち、日曜に開館している図書館は３館だけ、しかも午後２時から午後５時までの開館である。日曜に開館する図書館は少しずつ増えているものの、まだまだ特別なサービスである。

２．２　図書館はタダではない

日本では、図書館法の無料の原則（第17条）に従い、公共図書館サービスの利用はほとんど無料である。一方、イギリスの図書館法にも、サービスへの課金を制限する規定があり、図書や雑誌などの貸出には課金できないという規定がある。しかし逆に言えば、これらのサービス以外には課金できるわけなので、大半の図書館では、視聴覚資料の貸出、相互貸借、延滞、予約などを有料にしている。

昨年訪問したイングランド北東部サンダーランド市の図書館では、予約１冊につき50p（約120円）、相互貸借£1.50（約360円）、延滞１冊につき１日あたり12p（約30円）、CD貸出１点につき£1.00（約240円）、パソコンのプリントアウト１枚20p（約50円）であった。特に視聴覚資料の貸出は、どの図書館にとっても、重要な収入源であり、商売に熱心である。資料の新しさに応じて貸出料金を変えたり、「３for２（３枚借りれば、料金は２枚分で、１枚タダにする）」といったキャンペーンをしたりしている。

２．３　図書館とコンピュータ

イギリスも日本も、最近10年くらいの間に、インターネットに接続したコンピュータを設置する図書館が増えている。特にイギリスでは、国が自治体に補助金を支給したことから、図書館へのパソコンの設置が一気に進んだ。日本との違いは、大規模な図書館だけでなく、ごく小規模な分館にも、利用者用のパソコンが設置されている点である。教室半分はどの広さしかないような分館に行っても、１、２台のパソコンが設定されている。

新聞・雑誌記事や企業情報などのデータベースを使えることも多く、自宅から接続しての利用ができる場合もある。一定時間（図書館によって異なるが15分から１時間）の利用は無料とする図書館が多い。それ以上の利用はできないか、あるいは有料である。なかには最初から有料とする図書館もあって、問題となっている。

なお昨年訪問したサンダーランド市には、本や雑誌を全く搭載せず、パソコンのみを搭載した移動図書館があった。パソコンには、ワープロソフトなどのほか、お絵かきソフトや写真編集のソフトなどが入っていた。この車で学校や高齢者施設に出かけ、コンピュータに触れる機会の少ない人々を中心にサービスを提供しているそうである。ところで、ある図書館関係の雑誌に載っていたのだが、インドでは、同じように地域でコンピュータに触れる機会のない人々

ノーリッジ市の「手軽に読める本」コーナー

を対象に、ある大学がパソコンと電源を搭載した屋根つきの3輪自転車を走らせているそうだ。

2．4　本を読んでもらう工夫

日本では、ベストセラー偏重のコレクションは望ましくないと考えている人が多いが、イギリスでは、手軽に読めるベストセラーなどを中心としたコレクションを新たに提供する図書館が出てきた。イングランド中部のノーリッジ市やロンドン南部のサットン区では、一般のコレクションとは別に、2000年以降に「手軽に読める本」のフロアを設けて、ベストセラーや写真の多い本などを中心に提供するサービスを始めた。どちらの館でも、「手軽に読める本」は、入り口を入ってすぐのフロア、館内で一番よい場所を占めていた。

このようなサービスを始めた背景には、図書館の貸出の激減という事情がある。人口一人当たりの貸出冊数は、1980年度には12.0冊であったのが、2004年度には5.52冊にまで減少した（日本の2004年実績は5.17冊）。さまざまな理由が指摘されているが、人々の読書離れ、英語を理解できない移民の増加などの影響が大きいのではないかと言われている。こうした状況への対策として、「手軽に読める本」コーナーが設置された。

英語を読めない人々のためには、さまざまな言語での資料が用意されている。日本で外国語資料と言えば、英語、中国語、ポルトガル語などが多いが、EU諸国、旧植民地のインドやアフリカ諸国などから人が集まるイギリスの図書館では、日本の書店では見たこともないような言語の資料もあった。ロンドンのバーネット区の図書館の利用案内には、「英語でコミュニケーションはとれますか？通訳は必要ないでしょうか？自治体所属の通訳が相談にのりますので、下記の番号にお電話ください」という文章が、ギリシャ語、トルコ語、グジャラート語、中国語、ウルドゥ語、ソマリ語、ペルシャ語、ヒンディー語で記載されている（グジャラート語、ウルドゥ語、ヒンディー語は、インドの一部地域で、またソマリ語は、アフリカの一部地域で使われている言語）。少数ではあるが、日本語の資料を置いている図書館もある。例えば、今年訪問したロンドンのウエストミンスター区のある分館では、寄贈の本を中心にかなりの量の日本語図書のコレクションがあり、日本人ボランティアが受入などの整理業務を行っていた。

3．優れた事例ではなく、発想のヒント

イギリスの図書館を紹介するねらいは、「日本よりも進んだ海外の事例」を紹介することにあるのではない。社会背景、法律や行政制度、専門職制度などが異なる以上、サービスや運営に違いがあることはむしろ当然である。海外の事例をそのまま取り入れるのではなく、新たな発想を生み出すヒントとして考えてほしい。例えば、図書館サービスはすべて無料にしなければならないわけではなく、図書館法の枠内でも、コピーサービスのように有料を前提としたサービスを展開することは可能である。最近では、有料で図書の自宅配送を始めた図書館もある。また小規模な図書館だから、本しか置けないと考えるのではなく、小規模な図書館こそさまざまな情報源に接続できるパソコンを置くという発想もできるだろう。

もちろんイギリス以外でも、（日本から見れば）ユニークなサービスを提供している国々は他にもたくさんある。また同じ日本でも、明治・大正時代、戦前、戦後直後の図書館の様子は、現在とはだいぶ異なっている。さまざまな国の図書館、さまざまな時代の図書館を知ることで、改めて現代の日本の図書館の特徴がーよい点も不十分な点も含めてーわかってくるはずである。

サンダーランド市の移動図書館

卒業生から

筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士前期課程在学中　佐浦　敏之
（平成18年度　ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科卒）

私が司書課程を履修しよう思ったのは、高校生の時に図書委員になったことがきっかけでした。学校司書の先生と出会い、図書館の仕事を手伝ううちに、図書館に興味を持つようになりました。その過程で「司書」という職業を知り、入学後すぐに司書課程を履修することにしました。

司書課程で勉強していく中で、それまで知らなかった図書館の理念や、レファレンスサービスの存在、新たな情報メディアの存在などを知り、想像以上に図書館の世界が奥の深いことを知りました。一方で、学部の専門科目として情報システムや、インターネット上でのコミュニケーション、コンテンツの作成や流通などについて勉強していたことから、図書館とインターネットの関係にも興味を持つようになりました。また、図書館見学や図書館実習などの経験を通して、司書になるには図書館に限らず、メディアやシステムについても、体系的に勉強する必要があると感じたこともあり、大学院進学を考えるようになりました。

そこで、より専門的に図書館の理論や情報サービスとインターネットの関係性について学ぶため大学院に進学しました。進学先に筑波大学大学院図書館情報メディア研究科（図情）を選んだ理由は、図書館の専門家と情報技術の専門家の両方が在籍しており、広く情報とメディアの関係性について探求することができると思ったからです。また、大学院の先輩に専修大学出身の方が比較的多いことも理由のひとつです。

現在は、興味のある講義科目を履修しつつ、指導教員の先生や友人たちと語り合いながら修士論文のテーマを模索する毎日です。図書館等に勤めている社会人学生の方も多いことから、講義中の議論等を通して現場の事情や問題点などに触れる機会にも恵まれています。

大学院に入学してからSLiiiC[i]というプロジェクトに参加しました。これは、学校図書館支援を目的に、図情の学生が中心となって活動している任意団体です。私がSLiiiCに参加した理由は、CMS[ii]を用いたポータルサイトの開発運営への興味や、新たなスキルの習得もありますが、最大の理由は図書館の現場の人と関わる機会を得たいと思ったからです。SLiiiCでは、学校図書館やCMSなどに興味のある学生と、現場で活躍する学校図書館員、研究者などが協力して、学校図書館に関わる人たちを繋ぐためのポータルサイトを制作しています。ポータルサイトに掲載するコンテンツとして、学校図書館の日常業務で必要な技術（ブックコートのかけ方や図書の補修など）の作業手順を収録した映像や、現場での実践事例の紹介記事などをメンバーで共同制作しています。また、SLiiiCでは年に一度合宿を行っています。現場の図書館員の方や他の研究室の学生と一緒に研究したり、親睦を深めたりすることが、大学院生活を送る上での良い刺激になっています。

短い学生生活の中で経験できることや学べることには限界があるかもしれません。しかし、この期間にしかできないことも多いと思っています。この短い期間に、できる限り多くのことに挑戦し、マスターしていきたいと思います。司書課程・司書教諭課程を履修している皆さんも、夢に向かって頑張ってください！！

～追記～
SLiiiCでは、学校図書館に興味のある方の参加をお待ちしております。
http://www.Sliiic.Org/

i School Library Communication, Collaboration, and Combination
ii Contents Management System：HTMLやディレクトリなどの技術的な知識がなくても容易にWebサイトが構築できるシステム

「SLiiiC夏合宿集合写真」です。最前列右から2番目が私です

図書館実習を終えて

神奈川県立図書館　法学部法律学科４年　村山　由香

私は８月前半の２週間、神奈川県立図書館で図書館実習を行いました。神奈川県立図書館は、問題解決型リサーチ・ライブラリーとして、主に社会科学・人文科学分野の資料と、神奈川県に関する資料を収集・提供している図書館です。リサーチ・ライブラリーという特性上、普段利用している市町村図書館と違い、資料は学術書が中心で、利用者は成人の方がほとんどでした。

実習では、協力課・調査閲覧課・新聞雑誌課・地域資料課・図書課・視聴覚部をまわり、それぞれ業務内容の説明を講義で学んだあと、実際に業務を行いました。その他、どの資料を購入するか決める図書資料選定会議を見学させていただいたり、図書館員の方が講師を務め、県民の方を対象に開いている、資料紹介講座へ出席したりしました。カウンターでの応対やレファレンスの他、受入する資料の書誌データを入力する作業や、古い資料の補修なども行い、授業では学べなかった図書館の業務を学ぶことが出来ました。

県立図書館は、普段利用している市町村図書館とは異なる点が多く、初めは戸惑うことも多くありました。しかし、実習の中で、県立図書館のサービスを直接受けている人は少なくても、県立図書館は市町村図書館を通じて間接的に県民へのサービスを行っており、重要な役割を担っていることがわかっていきました。

書庫の様子

特に、協力課の業務では、市町村図書館の支援という県立図書館独自の役割を学ぶことが出来ました。県立図書館では、県内の市町村図書館間で相互貸借された資料を、宅配と協力車で各図書館へ届けています。実習では、資料を図書館ごとに荷造りし、協力車に同乗して県内の市町村図書館を回りました。実際に各図書館を回ってみて、資料を届けることより、情報交換が目的で行われているのだということがわかりました。県内には、施設も資料も充実した大きな図書館もありますが、まだこれから発展していく図書館もあります。そのような図書館に対して様々なアドバイスをすることが、県立図書館の役割でもあるのです。例えば、新しく始めるサービスに関して、既に同じようなサービスを行っている図書館の状況を伝えたり、県内の市町村図書館の活動を伝える図書館職員向けの広報誌を作成・配布したりしています。県内では図書館が整備されてきていますが、まだ発展中の図書館では、県立図書館が頼りにされている姿を見ることができました。各図書館の担当者の方と対面して情報交換を行うことで、小さな相談もしやすく、細やかな支援が行われているのだなと感じました。協力車での実習では、４ヶ所の市町村図書館を見学することも出来ました。予算が少ないために書架まで手作りしている館や、寄付金により資料がとても充実している館、科学館との複合施設となっている館など、それぞれ特色があり、同じ県内でも、自分の自治体以外の図書館は利用したことがなかったので、とても勉強になりました。

もうすぐ選定会議

また、相互貸借の依頼や県内の市町村図書館の蔵書を検索できる、横断検索に使われているシステムも県立図書館が管理しています。このシステムを参考に、県立高校の学校図書館でも相互貸借できるよう、県立高校との連携事業も進めているそうです。この事業の他にも、所蔵している伝記について、人物ごとに検索できるように作成された伝記資料索引の電子化や、LPレコードの検索用データの作成など、各部署でまだまだこれからやらなければならない仕事も教わり、今後も県立図書館は発展していくのだなと感じました。

図書館員の仕事は、普段利用者の目に触れるカウンター業務やレファレンスのイメージが強いと思いますが、実際は書誌データ入力や装備などの裏方の業務に関わる職員の方が多く感じました。裏方の作業はとても地味ですが、細かい作業が多く、神経を使います。また、書誌データ登録などは、登録する資料のあまりの膨大さに驚きました。しかし、各部署で出会った職員の方々からは熱意が伝わり、図書館員の仕事のやりがいを感じました。このような職員の方の集まる図書館で実習でき、図書館員への憧れがより一層強くなりました。

図書館実習を終えて

神奈川県平塚市立中央図書館　ネットワーク情報学部ネットワーク情報学科４年　小林　達矢

私は８月の中頃の約２週間を、神奈川県平塚市にある「平塚市立中央図書館」で実習をさせていただきました。来年で中央図書館は創立60年を迎え、一階がこども室、２階が貸出室、３階が参考室や会議室、映画のホールなどがあります。平塚市には他に地区館として、北館・西館・南館があります。

今回の実習は、もしかすると一人なのかと少し不安でもありましたが、他大学の学生が一緒でしたので、思った以上に楽しく実習をすることができました。実習の内容はといいますと、一日目は館内案内や実習をする上での注意などが主で、二日目から貸出室とこども室の２班に分かれて実習を行いました。主な作業は、カウンター業務と配架・書架整理という事になります。カウンターでの業務は、最初の頃は基本的に貸出・返却でしたが、少し慣れてくると、書庫から本を取り出してきたり、リクエストの本の処理をしたり、地区館から回送されてきた本の処理なども行いました。カウンター業務は大変だったのですが、慌てていて貸出・返却作業に戸惑ってしまっても、笑って許してくれるお客様が多かったのが大変嬉しかったです。こども室では、小さい子供に対しての言葉遣いが難しかったです。

期間中には地区館での実習もスケジュールを組んでくださり、館ごとの雰囲気や配架のルール、カウンター業務の差異などを、身をもって感じることができました。特に、地区館では子供向けのスペースと一般書のスペースが１フロアに一緒にあるので、年齢層ごとにカウンターでの対応を変えることや、返却するための棚を二つ置くなどの工夫があることに、中央館との違いを感じました。市内でもこのような差異を感じるのですから、市外や県外の図書館では随分違ってくるのではないかと思います。

BM（ブックモービル）、移動図書館「あおぞら号」

地区館が遠い地域には、25周年を迎えるBM（ブックモービル）、移動図書館「あおぞら号」がステーションをめぐり、その地域の方々に貸出を行っています。さすがに車にのせる蔵書数は少ないですが、その中で新作や人気の作品を中心に置いたりするなどの工夫も施されていました。

実習中に一番印象に残ったのは、「ブックスタート」と「お話会」に参加させて頂いた事です。ブックスタートに関しては授業で教わったのかもしれませんが、今回の実習で改めてこういう事業があるのだと認識しました。当日の業務は、ボランティアさんのお手伝いと、一緒にきた子供たちを預かったりするのが主でした。私が最初に担当した赤ちゃんは双子でしたので、ボランティアさんが保護者の方にブックスタートなどのお話をしている間、私が一人をお預かりしました。が、これまで赤ちゃんとふれあう機会などほとんどなかったので、やる事為す事が不安で、結局赤ちゃんが興味をもった絵本を読んであげることで何とかなりました。お話会では、性格的に人前で何かをするのが苦手なので、子供たちの前で絵本を読んでいるときは、ほとんど頭が真っ白でしたが、ふとした時に子供たちの方を見ると、熱心に聞いていてくれたのが嬉しかったです。ですが、正直なところ終わった後は精神的に疲れきっていて、残りの実習が厳しかったです。

平塚市立中央図書館入口

この約２週間の実習では、本当に貴重な体験をさせて頂いたと思っています。ブックスタートやお話会もそうでしたが、地元に住んでいながら見たことのなかった「あおぞら号」を見て・乗ることができ、裏方での大変な事務作業や除籍．レファレンスの難しさなども体験できました。このようなスケジュールを組んでくださり、実習中に本当に親切にしてくださった中央図書館の方々に感謝をし、この経験を今後に生かして行きたいと思います。

学芸員課程

専修大学の博物館事情

経営学部　教授　内田　欽三

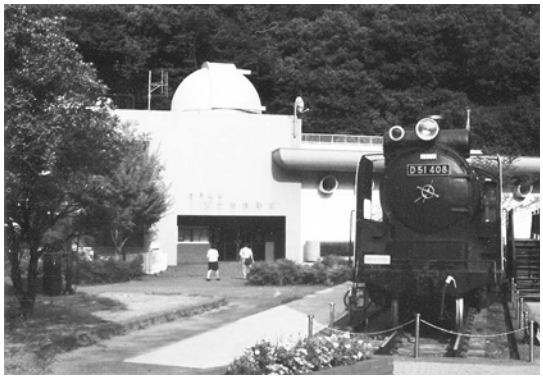
毎年、学芸員資格の課程を開講している大学の多くが、「全国大学博物館学講座協議会」という会議で一堂に会する。その数、平成19年３月末日で185大学にのぼる。学芸員資格をめぐる諸問題について討議し、情報を交換するとともに、各地の博物館の実情を視察するのが同協議会の趣旨である。その全国大会、もしくは東日本部会などに出席して思うことは、実に多くの大学が付属博物館を有しているという事実だろう。規模は大小様々、分野も一定ではなく、資料の質や量も各館で違いが見られるものの、それらの博物館は、たとえば考古学などの専門分野の授業などに積極的に活用され、文字通り《実物教育》を行う拠点となっている。と同時に、学芸員資格取得にとって必須の要件である《館務実習》の場としても活用されているのだ。まことに羨ましい限りである。さらに、それらは一般にも公開されている場合が多く、地域住民にとっての《学び》や《楽しみ》の空間となっている。大学全入時代を迎えて、生き残りを模索する日本の各大学は、受験生のみならず、地域住民にとって、《なくてはならない大学》や《魅力的な大学》を目指している。各種の特別展開催はむろんのこと、展示内容に関連した講演会、公開講座、市民大学、古文書教室や実演会など、大学博物館の役割や活用の可能性は、これからますます大きくなりそうだ。

ひるがえって我が専修大学、残念なことに未だ付属博物館を持たない。この点に関しては、付属博物館を有する大学と比較して、専門学科の学生の学習支援の劣勢、事実と認めねばならないだろう。ましてや、学芸員資格取得のための館務実習を自前でなどという美味しい話は、夢のまた夢である。しかし、ほんの少し見方を変えて、博物館を利用して学び、楽しむという観点ならば、専修大学の博物館環境そのものは、さほど悲観するには当たらないのではないだろうか。なんとなれば、我が専修大学の借景ともいうべき生田の森には、実に三つもの博物館が存在するからだ。しかも、徒歩10分圏内、専修大学近接博物館（勝手に命名して、ごめんね）のラインナップは、「川崎市日本民家園」「川崎市青少年科学館」「川崎市岡本太郎美術館」と、実にバラエティーにも富んでいる。勉学の合間に友人と気軽に博物館を利用できる環境がすでに備わっていること、学生諸君は是非とも認識し、大いに活用すべし、である。本誌８号で、青木美智男先生の名文により、その一端への言及はあるが、今回、我が近接博物館をあらためて紹介し、その見所を述べておこう。

「川崎市日本民家園」

まず、川崎市日本民家園である。昭和42年開園したこの博物館は、主に東日本を中心として、江戸時代創建の民家25件を系統的に集めた野外博物館だ。敷地面積は30,761m²と想像を超えて広大。古民家、農村歌舞伎舞台、水車小屋など、民家といっても様々。園路には道祖神や庚申塔などを配し、囲炉裏での焚き火が行われ、民家内に入れるものもあり、園内に足を踏み入れるや、さながら過去へタイムスリップした錯覚を味わえる。歴史学や民俗学に興味のある人、さらには藤沢周平のフアンの方々には、堪えられない楽しさだろう。しかも、園内の伊藤家住宅は、昭和39年に国の重要文化財に指定された逸品であり、ほかに重文が６件も含まれており、本館常設展示では、古民家に関する基礎的な知識、古民家での生活に関する民俗資料なども展示されている。体験学習講座もあり、わら細工、竹細工、はた織り、紙すきなどが体験できるし、舞台公演や民具製作実演会、年中行事展示など、その内容の盛りだくさんなことには、ただただ感服。ちなみに、《花より団子》派の諸君には、園内に「そば処白川郷」があり、手打ち蕎麦を味わえるぞ。これは特にお奨め。

次に川崎市青少年科学館を紹介しよう。こちらは市民の自然に対する興味を高めるために、昭和46年にプラネタリウムを中心とした建物が建てられ、天文学関連の活動を開始した。さらに、昭和57年に新館を増設し、展示室、学習室、



「川崎市青少年科学館」

天文観測室を備えるにいたった。昆虫や植物標本、動物の骨格標本など、我々の身近な自然を学ばせてくれるし、楽しませてくれる。肩の張らない博物館と言えるだろう。先に言及した各大学の付属博物館の多くは、たしかに素晴らしい建物や充実した資料を誇っているが、生田の森のごとき豊かな自然とプラネタリウムまで備えた付属博物館はまだお目にかかったことがない。16メートルドームにして、定席236席の堂々たるプラネタリウムが、大学生料金で100円とは、何ともお得ではないか。こちらも是非ともお奨めしたい。《鉄道マニア》さんには、館の目の前にD51蒸気機関車の実物が展示されているぞ。その優美にしてレトロな巨体に圧倒されること間違いなしだ。すぐ横手にはレストハウスがある。名称は洒落ているが、ここはコロッケうどんや天ぷらそば、カレーライスといった軽食がいただける庶民的なお店で、これもグット。

最後に川崎市岡本太郎美術館を見てみよう。こちらはぐっと新しく、平成11年に開館した。その発端は、平成3年に川崎市市民ミュージアムで「川崎の鬼才・岡本太郎」展が開催されたことで、これが契機となって岡本太郎氏より1779点もの作品が寄贈され、ここから新美術館建設が動き出したのだった。岡本太郎といえば、大阪万国博覧会のシンボル、「太陽の塔」の制作で知られているが、彼の活動は絵画、彫刻、デザイン、写真、さらには美術や文化に関する著作など実に多岐にわたっている。したがって、常設展示はその内容からして、実に盛りだくさん。ここに加えて、スペースそのものも極めてユニークだ。館に入るやいなや、最初のビック・サプライズが来館者を待ち構えている。それが何か、あえてここではタネ明かししないので、実際に足を運んでみてほしい。そして、館内の展示もまた、従来の美術展時には見られなかった仕掛けが、随所に散りばめられている。ここにありますよ、と展示が親切に示されているのではなく、来館者は展示を発見しなければならないのだ。「現代美術って、チョー分かんねえよ」という君、「岡本太郎なんてェー、あんまし興味ないシー」というあなた、食わず嫌いは勿体無いよ。好き嫌いは別にして、大きな驚きがあることは受け合いだ。併設されている特別展示室では、年4回、期間限定で様々の特別展も行われている。いわば岡本太郎の精神を受け継ぎ、現代美術の新たな発信の場目指しているのだ。ユニークなところでは、「ゴジラ展」が開催されたことが記憶に新しい。ほら、映画オタクのそこの君、少しは興味がわいてきたんじゃないかな。ミュージアム・ショップもあり、ここでは岡本太郎のデザインしたグッズも買える。ガラスばりのいかしたカフェテリア「TARO」が併設されており、ここのフード、ドリンク、スイーツは抜群。専修大学のすぐそばで、こんなに美味しいクリームパフェが食べられるなんて、再び驚きだ。

以上、我が専修大学の近接博物館を紹介しました。これで味をしめたら、大学の近くにこだわらず、電車やバスを利用して、もっと別の博物館にトライしてみよう。神奈川や東京だけでも、実に多彩な博物館と簡単に出会うことができるよ。どこかに、きっと君が興味を持てる博物館が待っているはずだ。勉強は教室や図書館だけでするものではない。大学生諸君、どしどし博物館へ行こう。

「川崎市岡本太郎美術館」

卒業生から

山梨県立考古博物館勤務　小林　健二（平成３年文学部人文学科卒）

私は、平成３年（1991）年３月に学芸員資格を取得し、卒業しました。

文学部では考古学を専攻し、長期の休みには、地元山梨で発掘調査のアルバイトをしていました。卒業後は、地元で考古学の仕事に就くことができたらと思っていたのですが、卒業した年は叶いませんでした。

その後、平成４年（1992）４月に山梨県教育委員会へ採用となり、山梨県埋蔵文化財センター、山梨県教育委員会学術文化財課を経て、平成17年（2005）４月から山梨県立考古博物館に勤務しています。

この博物館は、40.4ヘクタールという広い敷地をもつ「山梨県甲斐風土記の丘・曽根丘陵公園」の中心となる施設で、その名のとおり、考古資料を通して山梨の歴史を学ぶ考古学の専門館です。山梨県内の遺跡から発見された出土品が時代を追って展示されていますが、これらの中には、海外にも出品され、わが国を代表する縄文土器が数多くあり、それを目当てに来る人もかなりいます。

展示室の様子

そしてもう一つは、公園内にある国指定史跡の甲斐銚子塚古墳（全長169メートル）をはじめ、多くの遺跡が保存・整備されており、そこから発見された出土品をいっしょに見ることができること、この二つがこの博物館の「売り」です。

甲斐銚子塚古墳の遠景
（奥に見える建物が考古博物館）

博物館自体は、決して広いスペースではありませんが、恵まれた環境の中、公園全体を「博物館」として活用できるのが、大きな特色といえます。

当館では、年１回の秋の特別展を中心に、春と夏の企画展をはじめとして、県内の遺跡や文化財を巡るセミナー、各種考古学講座、実際の考古資料をもとに行うものづくり教室や体験など、さまざまなイベントを１年間にこなしています。自らの企画を積み上げて行う特別展や企画展は、学芸員として最大の魅力です。

一方では、行政機関である以上、入館者の増加、リピーターの確保は「至上命令」となっています。また、近年では指定管理者制度導入の問題など、効率的な博物館運営も大きな課題となっています。これらをクリアするためには、常に新たな企画が要求されます。

最近では、豊富な縄文土器を所有する県内市町村の博物館・資料館と連携してスタンプラリーを行ったり、普段展示ケース越しにしか見ることができない出土品を、来館者に実際に手にとって見てもらいながら、学芸員が各時代の展示解説を行うギャラリートークも始めました。

これらが実を結び、成果が出るまでには一定の時間がかかります。この間に、多くの来館者やスタッフと接し、続けていくことによって、考古学の楽しさ、すばらしさを多くの人たちに伝えることができればと思っています。

学芸員の使命は、まさにここにあると思います。

博物館実習を終えて

福島県須賀川市立博物館　文学部人文学科歴史学専攻３年　吉田　理実

私は福島県須賀川市にある須賀川市立博物館に実習をさせて頂きました。小さな頃からよく足を運んでいた慣れ親しんだ博物館での実習でした。

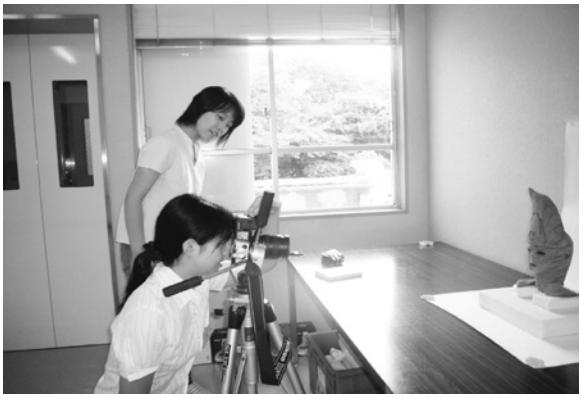
須賀川市立博物館はあまり大きな博物館ではありませんが、とても地域に密着した博物館です。展示資料は市民からの寄贈や寄託されたものがとても多く、博物館協議会や博物館友の会による図録作成や古文書読解、講習会の開催など、地域の方々からの協力により支えられています。

実習は非常に中身の濃いものでした。実習は私を含め５人で行われました。初日は、須賀川市立博物館の概要についての講義から始まりました。館長さんと学芸員さんのお話の中で、学芸員の仕事をしていく上で「人と人との関わり」をとても大切にしているとありました。私はこの実習を通して、このことを強く実感することになりました。

実習期間中、課題が出されました。館内にある資料を取り上げて、文献資料をもとに解説文を書き、展示解説シートを作成するというものでした。この課題を通して、博物館資料の扱い方について学びました。自分が選んだ資料を展示ケースや収蔵庫から運び、調書を記入し、写真を撮る作業をしました。ここで撮った写真は自分で書いた解説文と一緒に展示解説シートに載せました。資料の扱い方ももちろんですが、この課題で一番苦労したことは解説文を書くことでした。来館者の誰もがわかりやすい解説文となると、言葉選びや文章力が必要であると実感しました。

須賀川市立博物館

また、実習では館内の実習だけでなく発掘作業や他館への見学というものもありました。発掘作業は市内の遺跡の発掘現場に加えて頂きました。発掘作業は天候に左右され、とても体力を使い、常に遺物と近い作業ばかりではありません。こうして陰で支えている方々がいるからこそ、博物館の展示が成り立っていると身をもって知ることが出来ました。他館への見学では、企業が経営する市内の美術館へ行きました。見学先は現代アートの美術館で、立地や展示内容、展示方法などについて注目しながら見学しました。この見学では実習館とは全く違う特徴を持った企業美術館ということで、視野を変えて捉えるということが出来ました。他館との比較をすることで、それぞれの館の良さや改善点を見ることも必要であるとのことでした。



展示品の写真撮影

実習の最後には企画展の会議に参加させて頂きました。この会議では、展覧会名とポスターのデザインについて意見交換が行われました。この会議の中で企画展には担当する学芸員の方の思いがこもっていることがわかりました。展覧会の主旨に沿いながら、見る人に興味や関心を持ってもらう展覧会名、ポスターのデザインについて検討しました。展覧会が開催される過程の一部分に参加させて頂いたことはとても貴重な体験であったと思います。

今回の博物館実習では、館内で行われる資料の展示や保存、管理について講義だけでなく、実際に作業することで得るものが数多くありました。また、冒頭でも書きましたが、「人と人の関わり」を大切にして仕事をしているということを、発掘作業や展覧会の会議、博物館協議会や友の会の方々の活動の様子を知ることで実感しました。学芸員の仕事は、様々な分野に渡っていて、知識や専門分野だけなく、文章力や表現力、発想力、対応力なども備えていなければならないと思いました。それだけにとても大変な仕事ではありますが、とてもやりがいのあるものであると強く感じました。それは担当して下さった学芸員の方のお話や仕事に対する熱意からも伺うことが出来ました。とても充実した実習をさせて頂けたことに感謝しながら、実習で得た経験を今後に生かしていきたいと思います。

博物館実習を終えて

長野県飯田市美術博物館　商学部会計学科４年　温田　レナ

私はこの夏、自分の出身地である長野県飯田市に在る、飯田市美術博物館で２週間の実習を行いました。実習を終えてみての率直な感想として先ず思い浮かぶのは、「楽しかった」や「いい経験になった」といった言葉ばかりで、私にとってこの博物館実習は大変実りあるものだったと言えます。

飯田市美術博物館は、地方の博物館にしては珍しく規模が大きく、美術・自然・人文の多岐に渡る分野が扱われています。私はひとつの館で多様な分野を見ることが出来る博物館を理想としていたので、飯田市美術博物館は、正に私にとってうってつけの場所でした。また、「真夏に朝から通勤ラッシュの電車に乗りたくない」、「都会の美術館や博物館より、田舎の学芸員さんの方が優しいかな」そんな隠れた動機も有り、私はこの館を実習館として選択しました。実際に実習の受け入れが決まるまでは、面接を受けに行ったり意気込みを綴った作文を書いたりと幾つかのステップがあり、少し面倒に思ったこともありました。実習自体も、専門的に勉強をつんだわけでもないただの学生にどこまでやらせてくれるのかと不安ばかり募っていました。しかしいざ実習が始まってみると、その不安は杞憂に終わりました。学芸員の方々の「学ぶからには本物に触れたほうがいい」という考えの下、どの分野でも実際に美術博物館で収蔵している貴重な資料を手にして、その扱い方を学ぶことが出来たのです。学芸員の方のお話では、実習とは言っても実際には書類の整理ばかりで終わってしまい、実物には触れさせてもらえないということも多々有るのだそうで、偶然と言って良い様な動機でこの館を選んだ私としては本当にラッキーだったのだと思います。

この実習の間で、私には特に印象に残っていることが幾つかあります。先ず一つは、飯田市民の募金によって購入されたと言う、菱田春草の『菊慈童』をガラス越しではなく直に見ることが出来たことです。日本画は殆ど分からない私でさえ、その静かな存在感と迫力に圧倒されました。「本物を見る」ということの大切さを自身で経験した瞬間でした。次に印象に残っているのが、たまたま実習と時期が重なって開催された「美博まつり」です。今回が２回目となる美術博物館挙げての催しで、様々な分野のワークショップが市民に公開されました。私たち実習生はその各コーナーの補助を任されました。館の掲げる「市民一体型の博物館」のスローガンの下、当日は大盛況のうちに幕を閉じました。私も高校生の頃の学園祭を思い出したりして、館側の人間として大いに燃え尽きました。巻物や勾玉などを自分の手で作ったり、飯田城の城跡を見学して自分の住む土地の歴史を知ったり、ワークショップで体験できることは極表面的なことだけれど、そこから普段の美術博物館の活動にも目を向けてもらうきっかけを作る事が出来たと思います。

２週間の間、もちろん楽しいことばかりではなく、貴重な資料を扱うので緊張の連続だったり、一日中館内を走り回ってヘトヘトになったりと大変なことも多々有りました。博物館の置かれている厳しい現状も垣間見ました。しかし、今回の実習で得た多くの知識や体験は、私のこれからの人生にとって大きな財産になったと思います。また、実習を共にした他の実習生とまるで戦友のような友情が芽生えたことも、実習をより有意義なものにしてくれました。これから博物館実習へ行く皆さんも、一生のうちに一度有るか無いかの貴重な体験を是非楽しんで来て欲しいと思います。

データ編

平成18年度　資格課程履修者数

	学部	年次	1年		2年		3年		4年		小計		合計
		学科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
教職	経済	経済	58	24	49	11	50	10	41	10	198	55	253
		国際経済	23	—	18		15		14		70	0	70
	法	法律	45	22	53	15	26	10	44	5	168	52	220
		政治	18	—	—	—	—	—	—	—	18	0	18
	経営	経営	22	—	32		23		22	—	99	0	99
		情報管理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
	商	商業	—	—	50	12	27	5	28	4	105	21	126
		会計	9	—	5		6	—	3	—	23	0	23
		マーケティング	41	7	—	—	—	—	—	—	41	7	48
	文	国文	—	—	—	—	—	—	1	—	1	0	1
		英米文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		人文	58	—	59	—	61	—	36	—	214	0	214
		心理	5	—	3	—	2	—	3	—	13	0	13
		日本語日本文	74	—	58	—	64	—	54	—	250	0	250
		英語英米文	38	—	33	—	32	—	29	—	132	0	132
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	27	—	30	—	26	—	24	—	107	0	107
	大学院		16	—	—	—	—	—	—	—	16	0	16
	科目等履修生		—	37	—	—	—	—	—	—	0	37	37
	小計		434	90	390	38	332	25	299	19	1,455	172	1,627
	合計		524		428		357		318		1,627		

	学部	年次	1年		2年		3年		4年		小計		合計
		学科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司書	経済	経済	3	5	7	5	2	4	7	2	19	16	35
		国際経済	—	—	3	—	1	—	3	—	7	0	7
	法	法律	4	5	8	3	12	7	8	3	32	18	50
		政治	1	—	—	—	—	—	—	—	1	0	1
	経営	経営	2	—	4	—	3	—	9	—	18	0	18
		情報管理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
	商	商業	—	—	4	1	3	2	7	2	14	5	19
		会計	—	—	—	—	1	—	1	—	2	0	2
		マーケティング	3	2	—	—	—	—	—	—	3	2	5
	文	国文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		英米文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		人文	16	—	23	—	20	—	18	—	77	0	77
		心理	2	—	2	—	3	—	1	—	8	0	8
		日本語日本文	40	—	41	—	44	—	36	—	161	0	161
		英語英米文	2	—	3	—	3	—	7	—	15	0	15
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	5	—	6	—	14	—	9	—	34	0	34
	大学院		2	—	—	—	—	—	—	—	2	0	2
	科目等履修生		—	8	—	—	—	—	—	—	0	8	8
	小計		80	20	101	9	106	13	106	7	393	49	442
	合計		100		110		119		113		442		

	学部	年次	1年		2年		3年		4年		小計		合計
		学科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
司書教諭	経済	経済	—	3	1	1	3	—	—	1	4	5	9
		国際経済	—	—	1	—	1	—	1	—	3	0	3
	法	法律	2	—	4	1	3	1	5	3	14	5	19
		政治	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
	経営	経営	—	—	2	—	1	—	—	—	3	0	3
		情報管理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
	商	商業	—	—	2	1	—	1	3	—	5	2	7
		会計	—	—	1	—	1	—	—	—	2	0	2
		マーケティング	1	2	—	—	—	—	—	—	1	2	3
	文	国文	—	—	—	—	—	—	1	—	1	0	1
		英米文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		人文	2	—	3	—	3	—	2	—	10	0	10
		心理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		日本語日本文	11	—	11	—	12	—	4	—	38	0	38
		英語英米文	—	—	—	—	1	—	2	—	3	0	3
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	1	—	3	—	1	—	2	—	7	0	7
	大学院		1	—	—	—	—	—	—	—	1	0	1
	科目等履修生		—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
	小計		18	5	28	3	26	2	20	4	92	14	106
	合計		23		31		28		24		106		

	学部	年次	1年		2年		3年		4年		小計		合計
		学科	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	1部	2部	
学芸員	経済	経済	1	1	3	1	1	1	4	—	9	3	12
		国際経済	—	—	2	—	2	—	1	—	5	0	5
	法	法律	—	1	1	—	1	—	2	1	4	2	6
		政治	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
	経営	経営	—	—	5	—	5	—	—	—	10	0	10
		情報管理	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
	商	商業	—	—	3	1	—	—	1	—	4	1	5
		会計	—	—	—	—	1	—	—	—	1	0	1
		マーケティング	2	1	—	—	—	—	—	—	2	1	3
	文	国文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		英米文	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0
		人文	17	—	26	—	30	—	8	—	81	0	81
		心理	—	—	—	—	—	—	1	—	1	0	1
		日本語日本文	7	—	4	—	5	—	2	—	18	0	18
		英語英米文	—	—	2	—	—	—	1	—	3	0	3
	ネットワーク情報	ネットワーク情報	—	—	2	—	—	—	1	—	3	0	3
	大学院		3	—	—	—	—	—	—	—	3	0	3
	科目等履修生		—	1	—	—	—	—	—	—	0	1	1
	小計		30	4	48	2	45	1	21	1	144	8	152
	合計		34		50		46		22		152		

平成18年度　教員免許状取得状況一覧

			免許種類	中学一種					高校一種									中学専修				高校専修							合計
			教科	社会	国語	英語	数学	小計	地理歴史	公民	情報	商業	国語	書道	英語	数学	小計	社会	国語	英語	小計	地理歴史	公民	商業	国語	英語	情報	小計	
生田	一部	経済学科	申請件数	17				17	21	23		1					45				—							—	62
			授与件数	17				17	20	19		1					40				—							—	57
		国際経済学科	申請件数	5				5	4	8							12				—							—	17
			授与件数	3				3	3	7							10				—							—	13
		経営学科	申請件数					—			13	16					29				—							—	29
			授与件数					—			11	14					25				—							—	25
		情報管理学科	申請件数					—									—				—							—	—
			授与件数					—									—				—							—	—
		商業学科	申請件数	8				8	9	9	3	8					29				—							—	37
			授与件数	5				5	7	7	3	6					23				—							—	28
		会計学科	申請件数					—				3					3				—							—	3
			授与件数					—				3					3				—							—	3
		国文学科	申請件数					—									—				—							—	—
			授与件数					—									—				—							—	—
		英米文学科	申請件数					—									—				—							—	—
			授与件数					—									—				—							—	—
		人文学科	申請件数	22				22	30	18							48				—							—	70
			授与件数	19				19	27	15							42				—							—	61
		心理学科	申請件数	3				3		3							3				—							—	6
			授与件数	3				3		3							3				—							—	6
		日本語日本文学科	申請件数		37			37					54	5			59				—							—	96
			授与件数		33			33					50	4			54				—							—	87
		英語英米文学科	申請件数			22		22							25		25				—							—	47
			授与件数			21		21							25		25				—							—	46
		ネットワーク情報学科	申請件数				3	3			13					6	19				—							—	22
			授与件数				3	3			11					5	16				—							—	19
	研究科	経済学	申請件数					—									—				—		1					1	1
			授与件数					—									—				—		1					1	1
		経営学	申請件数					—									—				—						2	2	2
			授与件数					—									—				—						2	2	2
		商学	申請件数					—									—				—							—	—
			授与件数					—									—				—							—	—
		文学	申請件数					—									—	1		1	2	1	2			1		4	6
			授与件数					—									—	0		1	1	0	0			1		1	2
	小計		申請件数	55	37	22	3	117	64	61	29	28	54	5	25	6	272	1	—	1	2	1	3	—	—	1	2	7	398
			授与件数	47	33	21	3	104	57	51	25	24	50	4	25	5	241	0	—	1	1	0	1	—	—	1	2	4	350
神田	一部	法律学科	申請件数	23				23	27	33							60				—							—	83
			授与件数	20				20	26	27							53				—							—	73
	二部	経済学科	申請件数	7				7	4	6		1					9				—							—	16
			授与件数	6				6	3	5		1					9				—							—	15
		法律学科	申請件数	2				2	3	3							6				—							—	8
			授与件数	2				2	3	3							6				—							—	8
		商業学科	申請件数	1				1		1		2					3				—							—	4
			授与件数	1				1		1		2					3				—							—	4
	研究科	法学	申請件数					—									—				—		1					1	1
			授与件数					—									—				—		1					1	1
		経済学	申請件数					—									—				—							—	—
			授与件数					—									—				—							—	—
		商学	申請件数					—									—				—							—	—
			授与件数					—									—				—							—	—
	科目等履修生		申請件数	5		1		6	1	5	2				1	1	8				—							—	14
			授与件数	4		1		5	1	3	2				1	1	8				—							—	13
	小計		申請件数	38	—	1	—	39	35	48	2	3	—	—	1	1	86	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1	126
			授与件数	33	—	1	—	34	33	39	2	3	—	—	1	1	79	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1	114
合計			申請件数	93	37	23	3	156	99	109	31	31	54	5	26	7	358	1	—	1	2	1	4	—	—	1	2	8	524
			授与件数	80	33	22	3	138	90	90	27	27	50	4	26	6	320	0	—	1	1	0	2	—	—	1	2	5	464

平成18年度　教育実習先一覧（生田）

	所在地	実　習　校　名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
北海道・東北	北海道	北海道函館東高等学校	公　民	経済	経済	
	北海道	北海道清水高等学校	商　業	経営	経営	
	北海道	北海道帯広三条高等学校	公　民	文	心理	
	北海道	北海道大麻高等学校	英　語	文	英語英米文	
	北海道	北海道遠軽高等学校	英　語	文	英語英米文	
	北海道	北海道岩見沢緑陵高等学校	情　報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	青森県	青森山田高等学校	商　業	経営	経営	
	岩手県	専修大学北上高等学校	商　業	経営	経営	
	岩手県	専修大学北上高等学校	商　業	経営	経営	
	岩手県	専修大学北上高等学校	商　業	経営	経営	
	岩手県	専修大学北上高等学校	商　業	経営	経営	
	岩手県	専修大学北上高等学校	商　業	商	商業	
	岩手県	北上市立北上中学校	社　会	文	人文	歴史学
	岩手県	岩手県立盛岡北高等学校	国　語	文学		日本語日本文学
	宮城県	登米市立石越中学校	社　会	経済	国際経済	
	宮城県	宮城県石巻高等学校	公　民	文	人文	哲学人間学
	宮城県	石巻市立河南東中学校	社　会	文	人文	歴史学
	宮城県	宮城県古川高等学校	英　語	文	英語英米文	
	宮城県	宮城県仙台第二高等学校	地理歴史	文学		歴史学
	秋田県	秋田経済法科大学附属高等学校	商　業	経営	経営	
	秋田県	大仙市立大曲中学校	地理歴史	商	商業	
	秋田県	秋田県立秋田西高等学校	英　語	文	英語英米文	
	山形県	山形市立商業高等学校	商　業	商	商業	
	山形県	山形市立商業高等学校	商　業	商	商業	
	山形県	山形県立鶴岡南高等学校	公　民	文	人文	哲学人間学
	山形県	朝日町立朝日中学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	山形県	山形県立長井高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	福島県	福島県立福島西高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	福島県	福島県立福島東高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	福島県	福島県立白河高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	福島県	田島町立田島中学校	英　語	文	英語英米文	
	福島県	田島町立田島中学校	英　語	文	英語英米文	
関東	茨城県	下妻市立東部中学校	社　会	経済	経済	
	茨城県	茨城県立勝田高等学校	地理歴史	経済	経済	
	茨城県	茨木県立水戸桜ノ牧高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	茨城県	茨木キリスト教学園高等学校	公　民	経済	国際経済	
	茨城県	茨城県立下館第一高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	茨城県	茨城県立太田第一高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	茨城県	水戸市立第三中学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	茨城県	茨城県立水戸桜ノ牧高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	茨城県	かすみがうら市立下稲吉中学校	英　語	文	英語英米文	
	茨城県	茨城県立土浦第二高等学校	地理歴史・公民	文学		哲学
	栃木県	栃木県立足利商業高等学校	商　業	商	会計	
	栃木県	日光市立落合中学校	社　会	文	人文	歴史学
	栃木県	益子町立七井中学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	栃木県	大田原市立大田原中学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	栃木県	日光市立東原中学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	栃木県	栃木県立佐野女子高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	栃木県	栃木県立真岡女子高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	栃木県	栃木県立鹿沼高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	栃木県	栃木県立大田原女子高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	栃木県	栃木県立栃木工業高等学校	情　報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	群馬県	伊勢崎市立第二中学校	社　会	経済	経済	
	群馬県	太田市立商業高等学校	商　業	経済	経済	
	群馬県	東京農業大学第二高等学校	公　民	経済	経済	
	群馬県	群馬県立館林商工高等学校	商　業	経営	経営	
	群馬県	館林市立多々良中学校	社　会	文	人文	哲学人間学

	所在地	実　習　校　名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	群馬県	神川町立神川中学校	社　会	文	人文	歴史学
	群馬県	桐生市立桜木中学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	群馬県	伊勢崎市立第一中学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	群馬県	群馬県立渋川女子高等学校	英　語	文	英語英米文	
	群馬県	群馬県立渋川青翠高等学校	情　報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	群馬県	利根沼田学校組合立利根商業高等学校	情　報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	埼玉県	埼玉栄高等学校	公　民	経済	経済	
	埼玉県	大宮開成高等学校	情　報	経営	経営	
	埼玉県	西武学園文理高等学校	情　報	経営	経営	
	埼玉県	埼玉県立蕨高等学校	情　報	経営	経営	
	埼玉県	埼玉県立浦和高等学校	地理歴史	文	人文	哲学人間学
	埼玉県	さいたま市立大宮北高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	埼玉県	春日部市立豊野中学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	千葉県	柏市立柏高等学校	地理歴史・公民	経済	経済	
	千葉県	柏市立柏中学校	社　会	経済	経済	
	千葉県	松戸市立栗ケ沢中学校	社　会	経済	経済	
	千葉県	佐倉市立志津中学校	社　会	経済	経済	
	千葉県	千葉県立成東高等学校	地理歴史	経済	国際経済	
	千葉県	銚子市立銚子高等学校	公　民	経済	国際経済	
	千葉県	千葉県立津田沼高等学校	情　報	経営	経営	
	千葉県	市原市立国分寺台西中学校	社　会	商	商業	
	千葉県	千葉県立館山高等学校	商業・情報	商	商業	
	千葉県	千葉県立館山高等学校	公　民	文	人文	哲学人間学
	千葉県	専修大学松戸高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	千葉県	市川高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公　民	文	心理	
	千葉県	旭市立第二中学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	千葉県	千葉市立生浜中学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	千葉県	専修大学松戸高等学校	英　語	文	英語英米文	
	千葉県	旭市立海上中学校	英　語	文	英語英米文	
	千葉県	芝山町立芝山中学校	英　語	文	英語英米文	
	千葉県	中央学院高等学校	情　報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	専修大学松戸高等学校	情　報	経営学		経営学
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公　民	経済	経済	
	東京都	東京都立小川高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公　民	経済	経済	
	東京都	国士舘高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	東京都立昭和高等学校	地理歴史	経済	経済	
	東京都	東京都立狛江高等学校	公　民	経済	経済	
	東京都	東京都立北多摩高等学校	公　民	経済	経済	
	東京都	小平市立小平第四中学校	社　会	経済	経済	
	東京都	八王子高等学校	公　民	経済	国際経済	
	東京都	専修大学附属高等学校	公　民	経済	国際経済	
	東京都	東京都立調布南高等学校	情　報	経営	経営	
	東京都	かえつ有明中・高等学校	情　報	経営	経営	
	東京都	東亜学園高等学校	情　報	商	商業	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史・公民	商	商業	
	東京都	科学技術学園高等学校	情　報	商	商業	
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文	哲学人間学
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	東京都立調布南高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史・公民	文	人文	社会学
	東京都	拓殖大学第一高等学校	公　民	文	人文	社会学
	東京都	江戸川区立小松川第二中学校	社　会	文	人文	社会学
	東京都	専修大学附属高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学

平成18年度　教育実習先一覧（生田）

	所在地	実　習　校　名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	東京都	東京都立調布北高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	東京都	和洋九段女子高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	東京都	東京都立江戸川高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	青稜高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	白梅学園高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	桜美林高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	専修大学附属高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	暁星高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	桐朋女子中高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	湘南工科大学附属高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	跡見学園中学校・高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	攻玉社高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	武蔵野女子学院高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	東京都立町田高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	東京都	青梅市立新町中学校	英　語	文	英語英米文	
	東京都	青梅市立第六中学校	英　語	文	英語英米文	
	東京都	専修大学附属高等学校	英　語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立国分寺高等学校	英　語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立日野台高等学校	英　語	文	英語英米文	
	東京都	東洋女子高等学校	英　語	文	英語英米文	
	東京都	東京都立羽村高等学校	情　報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	東京都	専修大学附属高等学校	公　民	文学		哲学
	神奈川県	神奈川県立生田高等学校	公　民	経済	経済	
	神奈川県	横浜市立領家中学校	社　会	経済	経済	
	神奈川県	川崎市立生田中学校	社　会	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立厚木北高等学校	公　民	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立七里ガ浜高等学校	地理歴史	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立相模原高等学校	公　民	経済	経済	
	神奈川県	厚木市立厚木中学校	社　会	経済	国際経済	
	神奈川県	鎌倉学園中学校・高等学校	公　民	経済	国際経済	
	神奈川県	湘南工科大学附属高等学校	情　報	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立ひばりが丘高等学校	情　報	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立百合丘高等学校	情　報	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立元石川高等学校	情　報	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立鶴嶺高等学校	数　学	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立藤沢西高等学校	公　民	商	商業	
	神奈川県	伊勢原市立山王中学校	社　会	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立鶴嶺高等学校	地理歴史	商	商業	
	神奈川県	神奈川県立海老名高等学校	地理歴史	商	商業	
	神奈川県	大和市立渋谷中学校	社　会	商	商業	
	神奈川県	鎌倉市立大船中学校	社　会	文	人文	哲学人間学
	神奈川県	カリタス女子中学高等学校	公　民	文	人文	哲学人間学
	神奈川県	洗足学園中学高等学校	公　民	文	人文	哲学人間学
	神奈川県	神奈川県立厚木東高等学校	地理歴史・公民	文	人文	歴史学
	神奈川県	大磯町立大磯中学校	社　会	文	人文	歴史学
	神奈川県	神奈川県立柏陽高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	神奈川県	城山町立中沢中学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	神奈川県	大和市立鶴間中学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	神奈川県	川崎市立高津中学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	神奈川県	藤嶺学園藤沢高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	神奈川県	神奈川県立希望ケ丘高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	神奈川県	神奈川県立藤沢西高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立新城高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立多摩高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	相模原市立相原中学校	英　語	文	英語英米文	
	神奈川県	鎌倉市立大船中学校	英　語	文	英語英米文	
	神奈川県	厚木市立林中学校	英　語	文	英語英米文	

	所在地	実　習　校　名	実習教科	実習学生		
				学部	学科	専攻
関東	神奈川県	横浜市立共進中学校	数　学	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	聖園女学院中学校・高等学校	数学・情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立瀬谷高等学校	数学・情報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立麻生高等学校	情　報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	神奈川県立菅高等学校	情　報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
甲信越	新潟県	新潟県立新潟南高等学校	公　民	経済	経済	
	新潟県	新潟明訓高等学校	地理歴史	経済	経済	
	新潟県	長岡市立東中学校	社　会	経済	国際経済	
	新潟県	新潟県立五泉高等学校	商　業	商	会計	
	新潟県	新潟第一高等学校	公　民	文	人文	社会学
	新潟県	新潟市立白根北中学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	新潟県	三条市立本成寺中学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	新潟県	新潟明訓高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	新潟県	新潟県立六日町高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	新潟県	新潟県立柏崎高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	新潟県	新潟県立新潟西高等学校	英　語	文	英語英米文	
	新潟県	新潟県立新潟西高等学校	公　民	商学		商学
	山梨県	田富町立田富中学校	社　会	文	心理	
	長野県	長野県岩村田高等学校	地理歴史	商	商業	
	長野県	東御市立東部中学校	公　民	商	商業	
北陸	富山県	高岡第一高等学校	地理歴史	経済	経済	
	富山県	富山県立富山商業高等学校	商　業	商	会計	
	富山県	富山市立南部中学校	英　語	文	英語英米文	
	石川県	石川県立大聖寺高等学校	英　語	文	英語英米文	
東海	岐阜県	岐阜県立大垣北高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	岐阜県	岐阜県立益田清風高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	静岡県	静岡学園高等学校	情　報	経営	経営	
	静岡県	静岡県立浜松商業高等学校	商　業	商	商業	
	静岡県	静岡県立袋井高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	静岡県	磐田市立福田中学校	英　語	文	英語英米文	
	静岡県	静岡県立沼津商業高等学校	情　報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	愛知県	東邦高等学校	商　業	経営	経営	
	愛知県	愛知県立昭和高等学校	情　報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	愛知県	愛知県立昭和高等学校	情　報	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	三重県	三重県立桑名高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
近畿	兵庫県	宍粟市立山崎南中学校	社　会	文	人文	哲学人間学
中国	岡山県	岡山県立玉野高等学校	地理歴史	商	商業	
	岡山県	関西高等学校	商　業	商	商業	
四国	徳島県	徳島県立城ノ内高等学校	地理歴史	経済	経済	
	香川県	香川県立高松西高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	愛媛県	愛媛県立宇和島東高等学校	商　業	商	商業	
	愛媛県	愛媛県立松山中央高等学校	地理歴史	文	人文	社会学
	高知県	土佐塾中高等学校	英　語	文	英語英米文	
九州・沖縄	福岡県	うきは市立吉井中学校	社　会	経済	経済	
	大分県	大分県立高田高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学
	大分県	大分県立大分豊府高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本文学文化
	鹿児島県	鹿児島県立甲南高等学校	地理歴史	文	人文	歴史学
	沖縄県	沖縄県立名護高等学校	地理歴史	文	人文	環境地理学
	沖縄県	沖縄県立美来工科高等学校	国　語	文	日本語日本文	日本語学

平成18年度　教育実習先一覧（神田）

	所在地	実　習　館　名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	青森県	青森県むつ市立大平中学校	社　会	法	法律
	秋田県	秋田県秋田市立下北手中学校	社　会	法	法律
関東	茨城県	茨城県立藤代高等学校	地歴（世界史）	法	法律
	栃木県	栃木県立真岡高等学校	公　民	法	法律
	栃木県	栃木県私立作新学院高等部	公　民	法	法律
	栃木県	栃木県立大田原高等学校	公　民	法	法律
	埼玉県	さいたま市立浦和南高等学校	公民（政治経済）	法	法律
	埼玉県	埼玉県秋草学園高等学校	公　民	法	法律
	千葉県	千葉県柏市立光ケ丘中学校	社　会	法	法律
	千葉県	千葉県私立千葉敬愛高等学校	公　民	法	法律
	千葉県	千葉県君津市立小糸中学校	社　会	法	法律
	千葉県	千葉県船橋市立二宮中学校	社　会	法	法律
	千葉県	千葉県立千葉南高等学校	公民（政治経済）	法	法律
	千葉県	専修大学松戸高等学校	公　民	法	法律
	東京都	東京都府中市立府中第六中学校	社　会	法	法律
	東京都	東京都板橋区立志村第四中学校	社　会	法	法律
	東京都	東京都羽村市立羽村第一中学校	社　会	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	公　民	法	法律
	東京都	専修大学附属高等学校	地理歴史	法	法律
	東京都	東京都立新宿高等学校	地理歴史	法	法律

	所在地	実　習　館　名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	神奈川県	神奈川県横浜市立青葉台中学校	社　会	法	法律
	神奈川県	神奈川県川崎市立塚越中学校	社　会	法	法律
	神奈川県	神奈川県立横浜平沼高等学校	公民（現代社会）	法	法律
甲信越	山梨県	山梨県韮崎工業高等学校	公　民	法	法律
	長野県	長野県佐久市立浅間中学校	社　会	法	法律
	長野県	長野県飯田高等学校	公　民	法	法律
	岐阜県	岐阜県立飛騨高山高等学校	公　民	法	法律
東海	静岡県	静岡県私立藤枝明誠高等学校	地理歴史（日本史）	法	法律
	静岡県	静岡県立伊東高等学校	地　歴	法	法律
	静岡県	静岡市立清水商業高等学校	社　会	法	法律
	静岡県	静岡県立富士東高等学校	地理歴史（日本史）	法	法律
	静岡県	静岡県立韮山高等学校	公　民	法	法律
近畿	大阪府	大阪府私立箕面自由学園高等学校	公　民	法	法律
四国	高知県	高知県立宿毛高等学校	地理歴史・公民	法	法律
九州	大分県	大分県東国東郡武蔵町立武蔵中学校	社　会	法	法律
	宮崎県	宮崎県立宮崎西高等学校	公民（現代社会）	法	法律
	宮崎県	宮崎県日南市立吾田中学校	社　会	法	法律

平成18年度　教育実習先一覧（二部）

	所在地	実　習　館　名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
東北	岩手県	盛岡市立高等学校	地理歴史	法	法律
	福島県	田村市立滝根中学校	社　会	経済	経済
関東	茨城県	茨城県立磯原高等学校	地理歴史	法	法律
	茨城県	龍ヶ崎市立長山中学校	社　会	経済	経済
	群馬県	群馬県立前橋東高等学校	公　民	履修生	
	群馬県	群馬大学教育学部付属中学校	英　語	履修生	
	埼玉県	さいたま市立上大久保中学校	社　会	経済	経済
	埼玉県	桶川市立桶川中学校	社　会	商	商業
	埼玉県	八潮市立八條中学校	社　会	履修生	
	千葉県	千葉県立長狭高等学校	地理歴史	法	法律
	千葉県	市原市立姉崎中学校	社　会	経済	経済
	東京都	東京都立市ヶ谷商業高等学校	商　業	商	商業
	東京都	日本大学櫻丘高等学校	情　報	履修生	

	所在地	実　習　館　名	実習教科	実習学生	
				学部	学科
関東	東京都	東京都立第一商業高等学校	商　業	履修生	
	東京都	板橋区立板橋第二中学校	社　会	経済	経済
	東京都	墨田区立墨田中学校	社　会	経済	経済
	東京都	練馬区立石神井西中学校	社　会	商	商業
	神奈川県	明徳学園相洋高等学校	公　民	経済	経済
	神奈川県	神奈川県立有馬高等学校	公　民	経済	経済
	神奈川県	横須賀市立浦賀中学校	社　会	履修生	
甲信	山梨県	都留市立都留第二中学校	社　会	経済	経済
	長野県	長野県田川高等学校	地理歴史	経済	経済
東海	静岡県	御殿場市立西中学校	社　会	法	法律
	愛知県	名古屋市立守山中学校	社　会	履修生	
近畿	兵庫県	兵庫県立須磨東高等学校	公　民	履修生	
中国	広島県	安芸高田市立甲田中学校	社　会	法	法律

平成18年度　図書館実習先一覧

	所在地	実　習　館　名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北	青森県	むつ市立図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
関東	埼玉県	草加市立中央図書館	経営	経営	
	埼玉県	川口市立中央図書館	商	商業	
	埼玉県	埼玉県立熊谷図書館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	千葉県	市川市中央図書館	文	人文	社会学
	千葉県	市川市中央図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	千葉県	佐倉市立志津図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	川崎市麻生図書館	経済	経済	
	神奈川県	神奈川県立図書館	経済	経済	
	神奈川県	横須賀市立中央図書館	経済	経済	

	所在地	実　習　館　名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	神奈川県	伊勢原市立図書館	経済	国際経済	
	神奈川県	神奈川県立図書館	法	法律	
	神奈川県	神奈川県立図書館	文	人文	歴史学
	神奈川県	伊勢原市立図書館	文	人文	社会学
	神奈川県	伊豆市立修善寺図書館	文	日本語日本文	日本語学
	神奈川県	神奈川県立図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	厚木市立中央図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	神奈川県立図書館	文	日本語日本文	日本文学文化
	神奈川県	横浜市中央図書館	文	日本語日本文	日本文学文化

平成18年度　博物館（館務）実習先一覧

	所在地	実　習　館　名	実習学生		
			学部	学科	専攻
東北	岩手県	北上市立博物館	文	日本語日本文	日本語学専攻
	福島県	福島県立博物館	文	人文	歴史学
関東	茨城県	水戸市立博物館	文	人文	歴史学
	群馬県	高崎市少年科学館	経済	経済	
	群馬県	高崎市少年科学館	文	人文	歴史学
	埼玉県	さいたま市立博物館	文	人文	歴史学
	埼玉県	戸田市立郷土博物館	文	人文	歴史学
	埼玉県	埼玉県立川の博物館	文	人文	環境地理学
	千葉県	千葉県立房総のむら	文	人文	歴史学
	千葉県	千葉県立現代産業科学館	経済	国際経済	
	千葉県	市立市川考古博物館	文	人文	歴史学
	東京都	明治大学博物館	文	日本語日本文	日本文学文化専攻
	東京都	すどう美術館	法	法律	
	東京都	すどう美術館	文	人文	哲学人間学
	東京都	足立区立郷土博物館	法	法律	
	東京都	しながわ水族館	経営	経営	
	東京都	渋谷区立松涛美術館	文	日本語日本文	日本語学専攻
	東京都	目黒寄生虫館	文	英語英米文	
	東京都	世田谷区立郷土資料館	文	人文	歴史学
	東京都	新宿歴史博物館	文	人文	歴史学
	東京都	調布市武者小路実篤記念館	文	日本語日本文	日本文学文化専攻
	東京都	東村山ふるさと歴史館	文	人文	歴史学
	神奈川県	川崎市市民ミュージアム（歴史）	文	人文	歴史学
	神奈川県	川崎市立日本民家園	経営	経営	
	神奈川県	川崎市立日本民家園	文学		歴史学
	神奈川県	川崎市青少年科学館	文	人文	環境地理学
	神奈川県	相模原市立博物館	ネットワーク情報	ネットワーク情報	
	神奈川県	横浜開港資料館	文	人文	歴史学
	神奈川県	シルク博物館	商	商業	
	神奈川県	馬の博物館	文	人文	歴史学
	神奈川県	カスヤの森現代美術館	経営	経営	
	神奈川県	神奈川県立公文書館	文	人文	歴史学

	所在地	実　習　館　名	実習学生		
			学部	学科	専攻
関東	神奈川県	神奈川県立フラワーセンター大船植物園	経済	国際経済	
	神奈川県	新江ノ島水族館	経済	国際経済	
	神奈川県	秦野市立桜土手古墳展示館	文	人文	歴史学
信越	新潟県	新潟県立近代美術館	文	人文	歴史学
	新潟県	新潟市歴史博物館	文	人文	哲学人間学
	長野県	松本市立博物館	文	人文	社会学
東海	静岡県	牧之原市相良史料館	文	人文	歴史学
	愛知県	豊橋市自然史博物館	文	人文	哲学人間学
	愛知県	豊田市郷土資料館	文	人文	歴史学
近畿	和歌山県	和歌山県立紀伊風土記の丘	文	人文	歴史学
四国	高知県	高知県立美術館	文	人文	歴史学
九州	大分県	大分県立先哲史料館	文	人文	歴史学

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
平成15年度	平15 経済・経済	秦野市立堀川小学校	指導助手	
	平15 経済・経済	新利根町立太田小学校	期限付	
	平15 経済・経済	福岡第一高等学校	常勤	地理歴史
	平15 経済・経済	館山市立船形小学校	非常勤	国語・社会・図工
	平15 法・法律	野木町立野木第二中学校	常勤	社会
	平15 法・法律	川口町立川口中学校	非常勤	数学
	平15 法・法律	湯之谷村立湯之谷中学校	非常勤	数学
	平15 経営・経営	静岡県立田方農業高等学校	非常勤	商業
	平13 商・商業	船橋市立船橋高等学校	非常勤	商業
	平15 商・商業	群馬県立前橋商業高等学校	非常勤	商業
	平15 商・商業	専修大学北上高等学校	常勤	商業
	平15 商・商業	東京都立荒川商業高等学校（定時制）	非常勤	商業
	平12 文・国文	群馬県内公立小学校		
	平12 文・国文	福島県立福島南高等学校	常勤	国語
	平15 文・国文	倉敷市立児島中学校	非常勤	国語
	平15 文・国文	鶴岡東高等学校	常勤	国語
	平 4 文・英米文	大田区立田園調布中学校	専任	英語
	平11 文・英米文	作新学院高等学校	専任	英語
	平13 文・英米文	新鶴村立新鶴中学校	非常勤	英語
	平13 文・英米文	川崎市立御幸中学校	常勤	英語
	平13 文・英米文	三郷市立彦成中学校	専任	英語
	平15 文・英米文	新潟県立佐渡高等学校	期限付	英語
	平15 文・英米文	正則学園高等学校	非常勤	英語
	平15 院経営・修士	埼玉県立所沢西高等学校	専任	情報
	平14 院文・修士	獨協埼玉中・高等学校	専任	地理歴史
	平15 院文・修士	神奈川県立生田東高等学校	非常勤	情報・総合学習
	平15 院文・修士	朋優高等学校	専任	英語
平成16年度	平16 経済・経済	郡山市立小原田中学校	非常勤	社会
	平16 経営・経営	学校法人立教学院（立教新座中学校・高等学校）	非常勤	情報
	平16 商・商業	学校法人川島学園（鹿児島実業高等学校）	期限付	商業
	平16 商・会計	学校法人明昭学園（岩倉高等学校）	非常勤	商業
	平16 商・会計	学校法人佐藤栄学園	専任	商業
	平16 文・英米文	常総市立石下西中学校	非常勤	英語
	平16 文・英米文	株式会社社会教育事業団（武蔵国際総合学園）	期限付	英語
	平16 文・英米文	黒磯市教育委員会	常勤	英語
	平16 文・人文	学校法人福田学院（東和大学附属昌平高等学校）	非常勤	地理歴史
	平16 文・人文	北区内小学校	非常勤	
	平16 院経営・修士	宮崎県立富島高等学校	専任	商業
	平16 院経営・修士	学校法人沼津精華学園（沼津中央高等学校）	専任	商業・情報
	平16 院文・修士	新潟県立新潟西高等学校	専任	英語
	平16 院文・修士	学校法人拓殖大学（拓殖大学第一高等学校）	非常勤	地理歴史
	平15 法・法律	学校法人湘南白百合学園（湘南白百合学園中学高等学校）	非常勤	情報
	平12 文・人文	松戸市立六実第二小学校	専任	全科
	平15 法・法律	松戸市立牧野原小学校	専任	全科
	平15 文・英米文	あきる野市内小学校	専任	全科
	平 9 商・商業	学校法人開成学園（大宮開成高等学校）	非常勤	商業
	平15 文・英米文	川崎市立平間中学校	非常勤	英語
平成17年度	平13 経済・経済	川崎市立稲田小学校	専任	小学校
	平15 経済・経済	専修大学附属高等学校	専任	英語
	平17 経済・国際経済	銚子市立銚子第五中学校	常勤	社会・理科
	平14 法・法律	八街市内中学校	専任	社会
	平16 法・法律	千葉県印旛村立いには野小学校	専任	小学校
	平17 法・法律	船橋市立七林小学校	常勤	全科
	平17 法・法律	学校法人駿河学院 藤枝学院実務高等専修学校	専任	
	平16 経営・経営	神奈川県立生田東高等学校 東京都立新宿山吹高等学校 学校法人成城学園（成城学園高等学校）	非常勤	情報
	平16 経営・経営	専修大学附属高等学校 学校法人駒場学園（駒場学園高等学校）	非常勤	情報
	平16 経営・経営	学校法人立教大学（立教新座中学・高等学校） 学校法人慶應義塾（慶應義塾高等学校） 東京都立新宿山吹高等学校	非常勤	情報
	平16 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非常勤	情報
	平17 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非常勤	情報

主な教員就職先一覧

就職年度	卒業年・学部・学科	就職先	職名	教科
平成17年度	平17 経営・経営	岩手県立福岡高等学校	常勤	情報・商業
	平17 経営・経営	学校法人佐藤栄学園（栄東中学・高等学校）	専任	情報
	平17 経営・経営	埼玉県立所沢西高等学校 埼玉県立秩父高等学校 埼玉県立小鹿野高等学校	非常勤	情報
	平15 商・商業	日本放送協会学園高等学校	常勤	商業
	平12 文・人文	東京都内小学校	専任	全科
	平13 文・英米文	加賀市立片山津中学校	専任	英語
	平15 文・英米文	川崎市立有馬中学校	専任	英語
	平16 文・国文	学校法人福田学園（東和大学付属昌平高等学校）	非常勤	国語
	平16 文・国文	鴨川市立江見中学校	常勤	国語
	平16 文・英米文	結城市立結城中学校	専任	英語
	平16 文・人文	横浜市立青葉台中学校	臨任	社会
	平17 文・人文	学校法人市邨学園（名古屋経済大学高蔵高等学校）	非常勤	地理歴史
	平17 文・人文	厚木市立林中学校	臨時的任用職員	社会
	平17 文・日本語日本文	学校法人佐藤栄学園（埼玉栄高等学校）	常勤	国語
	平17 文・英語英米文	学校法人柏専学院（新潟産業大学附属高等学校）	非常勤	英語
	平17 文・英語英米文	学校法人松韻学園（福島高等学校）	常勤	英語
	平17 文・英語英米文	東京都立足立東高等学校	専任	英語
	平17 ﾈｯﾄﾜｰｸ情報・ﾈｯﾄﾜｰｸ情報	学校法人開成学園（大宮開成高等学校）	非常勤	情報
	平17 商・商業	学校法人松韻学園（松栄高等学校）	常勤	公民・商業
	平17 院商・修士	東京都立新宿山吹高等学校	専任	商業・情報
	平16 院文・修士	拓殖大学第一高等学校	非常勤	地理歴史
	平16 院文・修士	新潟県立巻高等学校	専任	英語
	平16 履修生	東京都立国立高等学校 東京都立美原高等学校 東京都立新宿山吹高等学校 日本放送協会学園高等学校	非常勤	情報
平成18年度	平15 経済・経済	秦野市立堀川小学校	専任	全科
	平17 経済・経済	藤沢市立第一中学校	期限付	社会
	平17 経済・国際経済	銚子市立西中学校	専任	社会
	平 9 法・法律	千代田区立麹町小学校	専任	全科
	平11 法・法律	学校法人渋谷教育学園（渋谷教育学園幕張高等学校）	非常勤	社会・公民
	平14 法・法律	小学校（川崎市）	専任	全科
	平14 法・法律	三田市立藍中学校	専任	社会
	平16 法・法律	足立区立千住本町小学校	専任	全科
	平17 法・法律	葛飾区立綾南小学校	専任	全科
	平16 経営・経営	専修大学付属高等学校	専任	情報
	平17 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非常勤	情報
	平17 経営・経営	東京都立新宿山吹高等学校	非常勤	情報
	平18 経営・経営	学校法人加計学園（岡山理科大学附属高等学校）	非常勤	情報
	平15 商・商業	甲斐市立玉幡小学校	専任	全科
	平17 商・商業	香川県立中部養護学校高等部	期限付	特殊（養護）
	平17 商・商業	YMCA高等学院	非常勤	商業
	平18 商・商業	浦安市立美浜中学校	非常勤	社会
	平18 商・商業	学校法人日本放送学園（NHK学園）	非常勤	商業
	平14 文・英米文	川崎市立御幸中学校	専任	英語
	平14 文・英米文	多摩市立東愛宕中学校	専任	英語
	平18 文・英語英米文	学校法人秀明学園（秀明英光高等学校）	非常勤	英語
	平18 文・英語英米文	渋谷区立中学校	非常勤	英語
	平18 文・英語英米文	平田村立小平中学校	常勤	英語
	平14 文・人文	四街道市立中央小学校	専任	全科
	平14 文・人文	八王子市立山田小学校	専任	全科
	平17 文・人文	学校法人日本橋女学館（日本橋女学館中学校・高等学校）	非常勤	社会・地理歴史
	平17 文・人文	学校法人誠恵学院（誠恵高等学校）	常勤	地理歴史
	平18 ﾈｯﾄﾜｰｸ情報・ﾈｯﾄﾜｰｸ情報	埼玉県立所沢西高等学校 埼玉県立庄和高等学校	非常勤	情報
	平16 院文・修士	東京都立町田養護学校	専任	
	平15 院文・修士	渋谷区立常磐松小学校	専任	全科
	平18 院文・修士	専修大学附属高等学校	非常勤	英語

司書課程・司書教諭課程主な就職先一覧（図書館／図書関係）

勤　務　先	
千葉明徳短期大学図書館	市川市東国分中学校
瀬高町立図書館準備室（福岡県）	東京大学法学部図書館
日外アソシエーツ（株）	見附市立図書館（新潟県）
有隣堂	女子栄養大学図書館
下妻市立図書館準備室（茨城県）	東京医科大学図書館
杉並区立中央図書館（東京都）	葛飾区立四ツ木地区図書館（東京都）
種村立図書館（茨城県）	専修大学図書館
八街市立図書館（千葉県）	藤沢市立中央図書館（神奈川県）
鵞湖書房	日本原子力研究所研究情報部情報メディアライブラリー
長岡市立中央図書館（新潟県）	（株）雄松堂書店
青山学院女子短期大学図書館	国士舘大学　鶴川図書館
実践女子大学図書館	学校法人橘学苑（橘学苑中学校・高等学校）
相模原市立相模大野図書館（神奈川県）	神奈川県立川崎高等学校
東京福祉商経専門学校図書館	

学芸員課程主な就職先一覧

勤　務　先	
宮城県栗原市役所	行田市郷土博物館
下妻市ふるさと博物館	さいたま市くらしの博物館民家園
行方市玉造公民館（資料館）	野田市郷土資料館
東京都埋蔵文化財センター	すみだ郷土文化資料館
群馬県埋蔵文化財センター	町立湯河原美術館
高山市立歴史民族館	国際航業株式会社
鳥羽水族館	秋田県埋蔵文化財センター
埼玉県埋蔵文化財センター	栃木県埋蔵文化財センター
由利本荘市矢島郷土文化保存伝習施設	富岡市立美術博物館福沢一郎記念美術館
（東京）電力館	MOA美術館
九州国立博物館	高松市歴史資料館
臼杵市教育委員会	逓信総合博物館
（財）山武郡市文化財センター	（株）乃村工藝社
調布市郷土博物館	日本民藝館
東京国際美術館	町田市フォトサロン
栃木県立博物館	山梨県立考古博物館
福井県立博物館	新発田市教育委員会
入間市郷土博物館	

平成18年度　資格課程年間行事表

課程		教職課程		司書課程		司書教諭課程		学芸員課程	
月		行事	対象年次	行事	対象年次	行事	対象年次	行事	対象年次
4月	上旬 中旬	教職・司書・司書教諭・学芸員課程履修ガイダンスおよび各種納金（全学年） 履修登録および履修修正（全学年）							
		介護等体験オリエンテーション 実習希望校との内諾交渉	3･4 3						
5月	上旬 下旬	教育実習事前ガイダンス 介護等体験事前講習会	4 3･4					博物館実習事前ガイダンス	3・4
6月	上旬 中旬 下旬	教育実習開始 （5月下旬～11月中旬） 教育実習登録ガイダンス 教育実習内諾書の提出 教員免許状一括申請ガイダンス 介護等の体験開始 （6月下旬～2月初旬）	4 3 3 4 3･4			司書教諭修了証書申請ガイダンス （3年次までに司書教諭の単位をすべて取得した者対象）	4	博物館見学実習	3・4
7月	下旬	前期試験（全学年） 夏期休暇（8月上旬～9月中旬）							
8月	上旬	前期追試験（全学年）							
		専修大学英語科教育研究会	1～4	図書館実習	4			博物館実習（館務実習）	3・4
		夏期休暇							
9月	中旬	教員免許状授与願ガイダンス	4						
10月		教職公開講座	1～4					博物館実習登録ガイダンス （第1回）	2・3
11月	上旬 下旬	教育学会	1～4			司書教諭修了証書申請ガイダンス （4年次に司書教諭の単位を履修している者対象）	4	博物館実習登録ガイダンス （第2回）	2・3
12月	中旬			司書課程就職（進路）相談会	1～4			実習希望博物館との内諾交渉 学芸員資格取得証明書申請手続き	2・3 4
1月	上旬～下旬	後期試験・学年末試験（全学年）							
2月	下旬	後期・学年末追試験（全学年）							
3月	上旬 中旬	教職特別講座 教員免許状の交付	1～4 4					博物館実習承諾書の提出 学芸員資格取得証明書の交付	2・3 4

平成18年度　教職公開講座開催結果

1．開 催 日　　平成18年10月７日（土）
2．時　　間　　13：30～17：00　　（17：30～19：00 反省・情報交換会）
3．場　　所　　生田校舎　８号館　（反省・情報交換会：キャビン（９号館５階））
4．参加者数　　88名
5．内　　容

（1）現職教員（専大OB）からの提言
（教員採用試験の内容・合格までの勉強方法および現職教員としての現在）

講　　師 （卒業年･学部･学科）	勤　務　先	科　目
吉田　一弥　先生 （平成13年３月文学部国文学科卒業）	千葉県千葉市立花園中学校	国　語
増田　陽一　先生 （平成５年３月文学部英米文学科卒業）	埼玉県菖蒲町立菖蒲中学校	英　語
武藤　智彦　先生 （平成16年３月文学研究科歴史学専攻修士課程修了）	東京都立町田養護学校	社　会
北本　　威　先生 （平成14年３月法学部法律学科卒業）	兵庫県三田市立藍中学校	
松井　一郎　先生 （昭和58年３月商学部商業学科卒業）	神奈川県私立相洋高等学校	商　業
服部　竜也　先生 （平成16年３月経営学部経営学科卒業）	東京都私立専修大学附属高等学校	情　報
野々村　誠　先生 （平成９年３月法学部法律学科卒業）	東京都千代田区立麹町小学校	小 学 校
松本　慶子　先生 （平成17年３月法学部法律学科卒業）	東京都葛飾区立綾南小学校	

（2）採用者側からの助言
（教職員の望ましいあり方および現在の教育課程について）

講　師	畠　山　利　子　先生	元神奈川県立川崎高等学校校長

（3）タイムテーブル

時　間	内　容	場　所
13：30～13：40	挨　拶 教職課程協議会委員長　ネットワーク情報学部　教授　砂原由和	814教室
13：50～14：20	現職教員からの提言① 国　語　　吉田　一弥　先生 社　会　　武藤　智彦　先生 商　業　　松井　一郎　先生 小学校　　野々村　誠　先生	 821教室 822教室 823教室 824教室
14：30～15：00	現職教員からの提言② 英　語　　増田　陽一　先生 社　会　　北本　　威　先生 情　報　　服部　竜也　先生 小学校　　松本　慶子　先生	 821教室 822教室 823教室 824教室
15：10～15：50	現職教員とのディスカッション 国　語　　吉田　一弥　先生 英　語　　増田　陽一　先生 社　会　　武藤　智彦　先生・北本　　威　先生 商　業　　松井　一郎　先生 情　報　　服部　竜也　先生 小学校　　野々村　誠　先生・松本　慶子　先生	 812教室 821教室 822教室 823教室 823教室 824教室
15：50～16：00	休　憩	
16：00～17：00	採用者側からの助言　　畠山　利子　先生 （講師紹介：商学部　教授　蔭山　雅博）	814教室
17：30～19：00	終了後、反省・情報交換会	キャビン （９号館５階）

平成18年度　教職特別講座開催結果

1．開 催 日　平成19年３月19日（月）・20日（火）２日間
2．時　　間　３月19日（月）9：00～12：10　13：30～16：40　１コマ90分　２コマ
　　３月20日（火）9：00～12：10　13：00～16：10　１コマ90分　２コマ
3．場　　所　生田校舎　４号館　２階　423教室（424教室）
4．参加者数　延べ62名
5．内　　容

開　催　日	時間	内　　容	講　　師	参加者数
３月19日（月）	9：00～12：10	時事用語・教育法規対策	経済学部教授　矢吹　芳洋	18名
	13：30～16：40	面接・小論文対策	墨田区立堅川中学校副校長 伊藤　雅夫 商学部兼任講師　岩田　公夫 商学部助教授　小峰　直史	17名
３月20日（火）	9：00～12：10	一般教養（理科）	専修大学附属高等学校教諭 田中　一晴	14名
	13：00～16：10	一般教養（数学）	専修大学附属高等学校教諭 長谷川素道	13名

平成18年度　第15回専修大学英語科教育研究会開催結果

1．開 催 日　平成18年11月５日（日）
2．時　　間　13：15～16：45（受付13：00～）
3．場　　所　生田校舎　８号館　２階　822教室
4．参加者数　41名
5．内　　容

時　　間	内　　容
13：00～	受付
13：15	開会 司会：文学部 助教授　片桐　一彦
13：20～14：20	「Intakeを目指した英語の授業ー音読活動からのアプローチー」 菖蒲町立菖蒲中学校　教諭　増田　陽一
14：20～14：30	休憩
14：30～15：50	「授業のパーツを作る教師の技と科学ーSELHi校の素顔ー」 渋谷教育学園幕張中学高等学校　教諭　内田　富男
15：50～16：00	休憩
16：00～16：35	「教員志望学生による模擬授業発表と参加者からのご指導」
16：35～16：45	閉会

平成18年度　司書課程就職（進路）相談会開催結果

1．開 催 日　平成18年12月20日（水）
2．時　　間　14：40～16：10
3．場　　所　生田校舎　２号館　３階　ゼミ33教室
4．ゲ ス ト　本多　いずみ氏（図書館流通サポート事業部）
5．参加者数　12名
6．内　　容　公共図書館関連の就職についてゲストを交え懇談。

平成18年度　資格課程教員紹介

《教職》

所属学部	職　名	氏　名	主要な担当科目
経済学部	教　授	矢吹　芳洋	公民科教育論
経済学部	講　師	角田真紀子	発達・学習心理学
法 学 部	教　授	広瀬　裕子	教育行政学
法 学 部	教　授	渡部　光	教育課程論
法 学 部	講　師	鈴木　秀光	法律学
経営学部	教　授	内田　欽三	博物館学
商 学 部	教　授	伊吹　克己	倫理学
商 学 部	教　授	蔭山　雅博	地理歴史科教育論
商 学 部	教　授	中野　育男	商業科教育論
商 学 部	助 教 授	小峰　直史	特別活動論
文 学 部	教　授	新井　勝紘	日本史
文 学 部	教　授	大庭　健	倫理学
文 学 部	教　授	鐘ケ江晴彦	教育社会学
文 学 部	教　授	亀井　明徳	博物館実習
文 学 部	教　授	田邊　祐司	教育実習（英語）
文 学 部	教　授	仲川　恭司	書道科教育論
文 学 部	教　授	貫　成人	哲学
文 学 部	教　授	福島　義和	地理学
文 学 部	教　授	松尾　容孝	地誌学
文 学 部	助 教 授	片桐　一彦	英語科教育論
文 学 部	助 教 授	高橋　龍夫	国語科教育論
ネットワーク情報学部	教　授	砂原　由和	教育方法論
ネットワーク情報学部	助 教 授	香山　瑞恵	情報科教育論
経済学部	兼任講師	佐藤　利彦	社会科教育論Ⅰ
経済学部	兼任講師	佐藤　由美	社会科教育論Ⅰ
経済学部	兼任講師	菅澤　康雄	社会科教育論Ⅰ
法 学 部	兼任講師	関根　照彦	法律学
法 学 部	兼任講師	樋口　州男	日本史
法 学 部	兼任講師	油井原　均	教育課程論
経営学部	兼任講師	大和田雄一	教育方法論
経営学部	兼任講師	田口　康明	比較教育学
商 学 部	兼任講師	飯森　富夫	日本史
商 学 部	兼任講師	市川　功	倫理学
商 学 部	兼任講師	井出　功孝	特別活動論
商 学 部	兼任講師	岩田　公夫	教育職員論
商 学 部	兼任講師	神山　安弘	地理歴史科教育論
商 学 部	兼任講師	小瑶　史朗	社会科教育論Ⅱ
商 学 部	兼任講師	前川　明彦	地理学
文 学 部	兼任講師	大熊　徹	国語科教育論Ⅰ
文 学 部	兼任講師	岡　秀一	地誌学
文 学 部	兼任講師	小林　基男	外国史
文 学 部	兼任講師	澤邉　和浩	外国史
文 学 部	兼任講師	角田　清美	地誌学
文 学 部	兼任講師	長阪　朱美	英語科教育論Ⅰ
文学部	兼任講師	挽地　茂男	宗教学
文学部	兼任講師	山下　直	国語科教育論Ⅱ
文学部	兼任講師	山添　謙	地理学
文学部	兼任講師	山田　智	外国史
ネットワーク情報学部	兼任講師	高橋　聡	数学科教育論Ⅰ

《司書・司書教諭》

所属学部	職　名	氏　名	主要な担当科目
経営学部	助 教 授	荻原　幸子	図書館概論
文 学 部	講　師	野口　武悟	学校経営と学校図書館
経済学部	兼任講師	御園生　純	生涯学習概論
法 学 部	兼任講師	斎藤憲一郎	情報検索演習
法 学 部	兼任講師	田中　功	情報検索演習
法 学 部	兼任講師	水上　和則	情報機器論
経営学部	兼任講師	丸山　光枝	学習指導と学校図書館
文 学 部	兼任講師	小黒　浩司	図書及び図書館史
文 学 部	兼任講師	汐崎　順子	児童サービス論
文 学 部	兼任講師	須賀　千絵	図書館経営論
文 学 部	兼任講師	千葉　治	コミュニケーション論
文 学 部	兼任講師	中島　玲子	情報サービス概説
文 学 部	兼任講師	長谷川幸男	児童サービス論

《学芸員》

所属学部	職　名	氏　名	主要な担当科目
経営学部	教　授	内田　欽三	博物館学
文 学 部	教　授	亀井　明徳	博物館実習

編集後記

今や日本の学校教育は大きく変わろうとしています。小・中・高等学校はもとより特別支援学校や特別支援学級においてさえも、「ゆとり」教育の排除、知識重視の風潮が強くなり始めています。児童生徒の主体的・積極的な学習への取り組みを尊重し、教師はこれを支援し援助する立場に徹すべきであるとする従来の学校教育は「学力低下」を惹起している、これが「ゆとり」教育排除の主要理由のようです。果たして「ゆとり」教育は児童生徒の「学力低下」の元凶なのでしょうか。それはともかく、こうした学校教育の変化に伴い、教育実習や介護等体験のあり方や実習生の受け入れ方にも様々な影響が発生しているようです。やがて教職を目指している学生に対する教育実習の機会均等の原則が崩れるかも知れません。そしてこのことは、大学における教員養成のあり方にも極めて深刻な影響を及ぼすことになるものと思われます。我々も急激な変化に迅速且つ的確に対応できるよう今から準備をはじめておくべきでしょう。

さて、本号ではOB・OGの現職教職員の皆さんや実習生にお願いして、大きく変わろうとしている教育現場の実際を学校種別、あるいは教科別に紹介して頂きました。これらが新しい教育情報として皆さんの参考になれば幸いです。投稿に応じてくださった諸兄姉・学生の皆さんにはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、平成19年度から、本学も玉川大学との連携により小学校教員免許状の取得が可能となったことを報告しておきます。もとより中学校教員免許状、高等学校教員免許状も従来どおり取得できます。教職課程はじまって以来の大改革と言っても過言ではありません。小学校で活躍する教員が次々と誕生してくれることを期待したいものです。

2007年11月1日

資格課程年報編集委員会

編集委員長　蔭山雅博
編集委員　広瀬裕子
渡部　光
仲川恭司
野口武悟

平成18年度　専修大学

資格課程年報『パッソ ア パッソ』

発行日　平成19年11月30日

編　集　専修大学
生田校舎　教務課　資格課程係
〒214-8580　神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1
TEL　044-911-1259　FAX　044-911-1244
神田校舎　教務課・二部事務課
〒101-8425　東京都千代田区神田神保町3-8
TEL　03-3265-5843・8359　FAX　03-3265-7084

ＵＲＬ　http://www.senshu-u.ac.jp/School/shikaku/

印　刷　株式会社　芳文社
〒194-0033　東京都町田市木曽町2320
TEL　042-792-3100

専修大学